

 越前市 工芸の里構想



表紙デザイン

和紙の技法「墨流し」、打刃物の刃の模様、越前箆笥（ケヤキ）の木目の写真を組み合わせることで、三つの異なる産地が共存し関連しあっているという、越前市の伝統産業ならではの奥深さと面白み、美しさを表現しています。また、これらの波紋形状は、自然が生んだ形状でもあり、越前市の自然背景が伝統工芸を育んできたという意味も含んでいます。さらに、工芸の里構想の取り組みによって、伝統工芸の各産地がつながり、波紋が広がり、広くまちづくりに展開していくというイメージも表します。

目 次

序章 越前市工芸の里構想策定の趣旨	1
1. 越前市の伝統工芸の歴史	1
2. 越前市伝統的工芸品の新たな動き	3
3. 工芸の里構想の位置づけ	5
第1章 伝統工芸の動向と環境の変化	6
1. 伝統工芸の動向	6
2. 伝統工芸を取り巻く環境の変化	6
第2章 各産地の現況と課題整理	8
1. 越前和紙の現況・課題	8
2. 越前打刃物の現況・課題	13
3. 越前箆笥（指物）の現況・課題	18
4. 三産地以外の伝統産業の現況	23
第3章 工芸の里構想の基本方針	25
1. 越前市の伝統工芸の特性	25
2. 目指す姿・基本方針	26
3. 工芸の里構想の振興策	27
第4章 振興策と事業の例示	29
1. 越前和紙の振興策と事業の例示	29
2. 越前打刃物の振興策と事業の例示	37
3. 越前箆笥（指物）の振興策と事業の例示	44
4. 伝統産業（全体）の共有・連携による振興策と事業の例示	50
第5章 工芸の里構想の実現に向けて	64
1. 推進体制	64
2. 推進期間	65
参 考	66
1. 越前市工芸の里構想策定会議 委員名簿	66
2. 越前市工芸の里構想及びふるさと創造プロジェクト検討経過	67

序章 越前市工芸の里構想策定の趣旨

1. 越前市の伝統工芸の歴史

(1) 越前市伝統工芸の歴史

本市の伝統工芸の歴史は、伝説によると、約1500年前に継体天皇が男大迹王（おおとのおう）として、今立の地にいたころに遡る。百濟より養蚕と絹織りの技術が伝わり、朽飯八幡神社に機織の御祭神が祀られた。これが、現代に続く織物の始まりであるという。

また、男大迹王が冠の修理を地元の塗師に命じたところ、見事なできばえに感激し、漆器づくりを奨励されたことが今日の越前漆器の始まりと伝えられている。

さらに同じ頃、岡太川の川上に美しいお姫様が現れ、紙漉きの技を里人に教えたのが、越前和紙の発祥であるという。のちに、大滝に岡太神社が建てられ、お姫様を紙祖神「川上御前」として祀った。

南北朝時代には、刀匠千代鶴国安が刀鍛冶の技を伝え、現在の打刃物となったという。

室町・戦国時代には、朝倉家の府中奉行所がこの地に置かれ、越前国の経済・文化の中心地としての実力を保っていた。

江戸時代には府中の城下町の整備が進み、それに伴って各種産業もまた発展した。三国の北前船や北陸道、浜からの馬借街道など、広域的な交通拠点でもあったことから、打刃物のための鋼や、漆器のための漆などが入り、和紙や打刃物が全国に売られていった。江戸中期には越前瓦が発祥し、寺院や住宅において用いられた。

また、江戸時代末期に発展した越前指物・越前箆筒は、打刃物によって培われた鍛冶技術により金具が作られ、産地が形成されている。

(2) 越前市伝統工芸の発展

越前和紙は、江戸時代に福井藩が全国に先駆けて藩札を発行したこともあり、明治新政府の「太政官金札」の用紙に使用された。さらに政府が機械すきによる紙幣の発行をはじめると、越前和紙の職人が、偽札防止のための透かし技法として「黒すかし」という技法を完成させたことから、日本の紙幣製造技術は飛躍的に進化したといわれている。また、越前和紙の高い品質を維持してきたもうひとつの要因として、横山大観、小杉放庵、竹内栖鳳などの日本画家たちとの交流があった。彼らの評価と示唆によって、越前和紙は改良を重ね、品質向上が図られており、国内トップの和紙産地が形成されている。

越前打刃物は、江戸時代に福井藩の保護政策のもと鍛冶株仲間が組織され、技術の伝承や産業育成が図られた。幕末の慶応2年（1866年）には120軒の鍛冶屋があったとされる。戦後、高度成長期には、打刃物工業の経営の合理化を図るため、工場の集団化（団地形成）が行われ昭和51年には池ノ上工業団地が完成している。現在の越前打刃物は、日本古来の火づくり鍛冶技術や手仕上げを守りながら、調理用包丁を中心に生産されている。

越前箆筒においては、江戸時代末期から家具の製造販売業者や建具商など木工職人たちが集まって軒をつらね「タンス町通り」が形成され、現在もその風情を残している。

(3) 越前市の工芸に共通する物語

古代伝説の時代から、継承と革新を繰り返し、現代に受け継がれる手仕事

越前市の工芸のルーツは、1500年前の古代伝説の時代に遡る。越の国が古代アジア大陸との玄関口として栄え、多くの渡来人とともに最先端の技術・文化が海を渡り、一大産業都市が築かれた。国内で最も古い産業がこの地に集積しているのは、このような地理的条件が作用している。

さらに、奈良時代には越前市に国府が置かれ、地方政治の拠点として長く、各産業が持続的に発展する環境が整ったと言える。

しかし、明治以降の工業化の時代から戦後の高度経済成長期にかけては、日本の製造業はクラフト的生産体制から大量生産体制への移行が進み、手仕事が失われていった。そのような中においても、越前市の工芸は、機械化と手仕事の継承を柔軟に組み合わせることにより、産地として現代に受け継がれている。

そして今、手仕事の素晴らしさが見直され、大量生産からクラフト的生産への再転換の必要性が高まる中で、越前市の工芸の可能性が高まっている。

(4) 越前市伝統工芸の指定状況

経済産業大臣指定の「伝統的工芸品」及び福井県知事指定の「郷土工芸品」は、次のとおりである。

経済産業大臣指定「伝統的工芸品」	●越前和紙 ●越前筆筒	●越前打刃物 ●越前漆器（主な産地は鯖江市）
福井県知事指定「郷土工芸品」	●武生桐筆筒 ●越前指物	●武生唐木工芸 ●武生唐木指物
そ の 他	●繊維製品	●越前瓦

2. 越前市伝統的工芸品の新たな動き

個別の事業者が産業の垣根を越えて「越前ものがたり」事業を進めるとともに、ジャパンプラ
 ンド等を活用した海外進出、国や県の事業を活用した産地の取組も活発である。

(1) 「越前ものがたり」の取組

- ・モノづくりを首都圏の生活者に向けて PR するサポートプログラム。商品の企画、開発、そして展示会、販売会までを一貫して取り組んでいる。
- ・平成 25 年度は、デザイナーやバイヤー等の専門家の指導を受け、消費者の目線に立った商品の開発や改良に取り組み、東京インターナショナル・ギフト・ショーに出展している。
- ・平成 26 年度は、「越前ものづくり塾」として 9 組のゲスト講師との勉強会を中心に、ものづくりをもう一度考えるプログラムとなっている。
- ・今年度は、6 年目を迎えており、意欲のある事業者の商品開発やデザイナーとの連携に対し効果が生まれている。



東京インターナショナル・ギフト・ショー
 2013 年度は 22 の事業者が取り組み、越前ものがたりとして出展



ものづくりショールーム「Monova」での展示即売会
 新宿のセレクトショップにて、「東京えちぜん物語」として展示即売会を実施

(2) アーティストとのコラボレーション

■越前和紙×写真「棚井文雄」

- ・「越前和紙の里」や福井県全土を撮影した写真家棚井文雄の写真展を開催。全ての作品を越前和紙にプリントしている。
- ・ニューヨーク日本国総領事館、越前和紙の里、東京で開催



卯立の工芸館で行われた「フォト／スクリーン@NY 報告展」ポスター

■和紙組合青年部企画展「×和紙 2014」

- ・越前和紙の若手職人たちが構成される、越前和紙青年部会の活動。和紙とアートを結ぶ視点で制作された作品を展示し、新しい和紙の可能性にチャレンジしている。



×和紙 2014 開催の様子

(3) 海外進出

- ・ヨーロッパとアメリカをターゲットに定め、越前ブランドを確立するため欧米への展示会等に参加している。



タケフナイフビレッジが「アンビエンテ フランクフルト」に出展の様子

越前打刃物に関心を寄せ世界各地のリテイラ、ディストリビューターとの商談を行っている。

(参考) ボキューズ・ドール「ステーキナイフ」の開発

- ・フレンチシェフが腕を競い合う『ボキューズ・ドール国際料理コンクール』において、シェフの浜田統之氏が世界第3位に輝いた。この快挙を後押ししたのは、レストラン仕様のナイフを開発した越前打刃物。有限会社龍泉刃物が製造し、保坂武文氏が開発サポート、渡辺弘明氏がデザインを行っている。龍泉刃物は今後、大会使用モデルを欧州各国の三つ星レストランなどに販路拡大する方針である。



ボキューズ・ドールのために開発したステーキナイフ

3. 工芸の里構想の位置づけ

(1) 目的

本市の伝統産業は、経済のグローバル化や社会経済の成熟化に伴い、消費者ニーズの多様化、個性化、流通構造の変化など、厳しい環境にさらされる中、商品開発や販路拡大等に力を注ぎ生き残りを図ってきた。

特に、伝統的工芸品産業は、生活様式の変化による生産量の激減や高齢化・後継者不足による廃業などにより危機的な状況に直面している。そのような中、平成 25 年 12 月に「越前箆笥」が国の伝統的工芸品として指定され、それを起爆剤として箆笥だけでなく越前指物全体のレベルアップを図る動きが生まれてきた。また、越前打刃物においては、包丁の切れ味が欧米で認められ輸出量が増加しており、元気を取り戻しつつある。越前和紙においては、和紙の製作用具及び製品が国の重要有形民俗文化財に指定されるなどの新たな動きが生まれている。その他に、市内には越前漆器や越前焼に関係している事業所も多く存在し、越前指物、越前瓦、織物などの伝統産業に関係した事業所も存在する。

また、北陸新幹線敦賀延伸が前倒しになり、平成 34 年度に開業する予定である。本市の特性を活かし、伝統工芸を活用した交流人口拡大の取組を着実に進めていく必要がある。

産地再生におけるターニングポイントを迎えている今、他市にあまり例を見ない伝統産業を抱える本市の特性を生かし伝統工芸の振興策について新たな方向性を示すとともに、各産地の連携により交流人口の拡大を進め、地域振興を図ることを目的に「越前市工芸の里構想」を策定する。

(2) 対象とする伝統工芸

経済産業省大臣指定の「伝統的工芸品」のうち、越前市が主な産地である越前和紙、越前打刃物、越前箆笥（指物）を「三産地」と位置付け、個別に検討し計画の中心に据える。

「三産地以外の伝統産業」については、全体の中で検討し計画に位置付ける。

三産地	●越前和紙 ●越前箆笥（指物）	●越前打刃物	個別に検討し、計画の中心に据える。
三産地以外の伝統産業	●織物（繊維製品） ●越前瓦	●越前漆器	全体の中で検討し、計画に位置付ける。

(3) 検討組織

越前市工芸の里構想の策定に関し、「工芸の里構想策定会議」を設置し、全体の課題、方向性、実施プロジェクトを検討する。

また、各地区の計画の策定にあたり「ウエスト地区検討会議」（越前打刃物、池ノ上工業団地、タケフナイフビレッジ等）、「セントラル地区検討会議」（越前指物、四町まちづくり協議会等）を設置する。尚、「イースト地区」（越前和紙）に関しては、ふるさと創造プロジェクトで検討し、全体の産業振興策に係る部分は、本計画でとりまとめる。

(4) 構想の推進期間

越前市工芸の里構想の推進期間は、平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間とする。

特に、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間で重点期間と位置づけ、独自の振興事業を展開し越前市の伝統工芸産業及び地域の活性化を目指す。

第1章 伝統工芸の動向と環境の変化

1. 伝統工芸の動向

(1) 全国の伝統的工芸品産業の現状

全国の伝統的工芸品の生産額の推移をみると、昭和50年代後半にピークを迎え、平成2年までは一定の水準を保っていたが、バブル崩壊後の落ち込みが大きく、平成2年の5,082億円から平成21年には1,281億円へ減少している（75%減）。

また、従業員数は昭和61年から減少を続け、平成2年の21万人から平成21年には8万人に減少している（62%減）。



図 伝統的工芸品の推移（全国） 出所：経済産業省資料

2. 伝統工芸を取り巻く環境の変化

伝統工芸を取り巻く環境の変化として、全国的な動向を整理する。大きくは、需要に関する環境の変化として消費者サイドから見た変化と生産に関する環境の変化として、供給者サイドから見た変化に分類し、傾向を探る。

(1) 需要に関する環境の変化

① 少子高齢化による人口の減少

日本の総人口は、平成25（2013）年10月1日現在、1億2,730万人と、23（2011）年から3年連続の減少であった。また、65歳以上の高齢者人口は、過去最高の3,190万人（前年3,079万人）となり、総人口に占める割合（高齢化率）も25.1%（前年24.1%）と過去最高となった。

日本の総人口は、長期の人口減少過程に入っており、平成38（2026）年に人口1億2,000万人を下回った後も減少を続け、60（2048）年には1億人を割って9,913万人となると推計されている。

人口減少は、国内需要の低下に直結するとともに、少子高齢化による景気の減退や、可処分所得の減少等により、高級品に対する市場が縮小すると予想されている。

②国民のライフスタイルの変化

国民のライフスタイルは、利便性・機能性が重視される日常生活へと構造的な変化が生じていると言われている。そのため、冠婚葬祭や進物儀礼などの伝統的・慣習上の機会が減少しつつあり、伝統工芸の活躍の場が減っていると考えられる。

また、消費者として、伝統的工芸品の持つ「本物の良さ」や、日常生活における使用・活用・メンテナンス方法等についての情報・理解が不足している傾向があり、特に、若年層においては伝統的な文化や生活に対する体験や知識が不足している。

このようなライフスタイルの変化より、伝統工芸を購入する機会が減少しており、需要の低下につながっていると考えられる。

③海外からの輸入品の増加

国際化の進展に伴い、様々な商品が我が国に輸入されて流通することで、日常生活においても数多くの外国産の商品に囲まれて生活している。消費財の輸入動向をみると、2000年に11.5兆円だった輸入額は、2011年には14.3兆円に増えている。

国内需要が縮小する中、海外からの輸入品が増加していることから、国内で製造したものが国内で売れる量は減少しており、伝統的工芸品の販売額低下につながっている。

(2) 生産に関する環境の変化

①人材・後継者の不足

伝統的工芸品の産地の従業者数は、昭和50年代と比べて約3分の1に減少（昭和55年：261千人→平成21年：79千人）しており、50歳以上の従事者の割合が64%（平成21年度）を占めるなど、人材の減少と高齢化が進んでいる。

また、産業全体の売上の不振等により、後継者を受け入れる体制が整わない等、若手の従事者を増やすことが難しくなりつつある。

このまま進むと、伝統工芸の技術継承が困難になり、産地の存続を脅かすと考えられる。

②生産基盤（原材料・生産用具など）の減衰が深刻化

伝統工芸の原材料は、主に自然素材であり、貴重な有限の資源である。再生産には制限があり、原材料として再生・活用・使用できるようになるまでには相応の時間が必要であることから減衰、枯渇が深刻化している。また、原材料の生産者が高齢化と後継者不足により減少しており、伝統工芸品産業の継続性が危ぶまれている。

産業全体の縮小は、生産用具の使用機会の減少をもたらし、用具の材料の採取、用具の製作・修理などを担う人材も、専業では成り立たず、廃業を余儀なくされる事態を招いている。

参考資料：経済産業省製造産業局伝統的工芸品産業室資料

平成26年版高齢社会白書

平成25年版消費者白書

第2章 各産地の現況と課題整理

三産地の現況を整理するとともに、関係者ヒアリングの結果等をふまえ課題分析を行う。また、三産地以外の伝統産業の概況について整理を行う。

1. 越前和紙の現況・課題

(1) 越前和紙の特性

1500年という長い歴史をもつ越前和紙には、他の産地にはない特徴がいくつもある。

前述のとおり、紙漉きの技を伝えたと伝承される紙の神様「川上御前」を祀っており、産業と信仰との結びつきがみられる。その歴史は、時代ごとに異なるさまざまなニーズに応じて発展してきた歴史であり、そうした時代の要請に応えることができる柔軟な適応力をもっている。そのなかから高い技術力をもつ紙漉き職人が生まれ、また、多くの技法を生み出してきた。時代のニーズによって創りだされてきた越前和紙は、種類が豊富である。

越前和紙の製造工程は、基本となる8つの工程〔水浸け・洗い、煮る、灰汁だし・晒し、塵選り、叩解、抄紙、圧搾・乾燥、仕上げ〕からなる。これらの工程は、古くから伝わるものであり、越前和紙産地の特色により創意工夫されたものである。これらの工程を忠実かつ丁寧に行うことで、本来の美しくなめらかな和紙をつくることが可能となる。

代表的な越前和紙の一例

	【奉書紙(ほうしょし)】 かつては御教書紙と呼ばれ、高貴な人たちの公文書に使用されていた。上品でふっくらとした紙肌と優美で洗練された風合いが上層階級に受け入れられ、特に優れた越前ものは「奉書」と名付けられ、他国のものとは区別して重宝された。
	【鳥の子紙(とりのこし)】 越前和紙の代表でもある襖紙として使用される。紙の色が鶏卵に似ていることから、鳥の子紙、鳥の子色紙と呼ばれ、越前が主産地となっている。和漢三才図会には「肌なめらかにして書きよく、性堅、耐久、紙王というべきものか」と賞賛された。
	【美術工芸紙(びじゅつこうげいし)】 水墨画、揮毫(きごう)用などに使用される紙で、昔は大麻で抄造されたものが主であった。 漢字やかな文字を芸術的に表現する書道用紙として使われるほか、日本の伝統的な技法で描かれる日本画用紙としても使われる。越前和紙は、横山大観・竹内栖鳳・平山郁夫など、日本画の巨匠にも愛用されている。

(2) 産地の現況

①生産者の状況

- ・60社が組合に参加しており、業種別では手漉き和紙事業所が最も多い。1社あたりの社員数は、手漉き和紙事業所の4.1人に対し機械抄き和紙事業所は7.6人である。
- ・年間売上は約30億円であり、機械抄き事業所が約19億円で6割を占める。
- ・社員1人あたりの年間売り上げは、機械抄き和紙事業所の1,110万円に対し、手漉き和紙事業所は370万円である。

表 和紙組合加入者の状況

	事業所数(社)	社員数(人)	年間売上(百万円)	1社あたり社員数(人)	1社あたり年間売上(百万円)	1人あたり年間売上(百万円)
手漉き和紙事業所	31	127	470	4.1	15.2	3.7
機械抄き和紙事業所	22	168	1,865	7.6	84.8	11.1
紙加工事業所	13	65	705	5.0	54.2	10.8
合計	60	360	3,040	6.0	50.7	8.4

注：平成26年4月現在 福井県和紙工業協同組合調べ
事業所のうち、手漉き・機械抄き兼業が6社ある

②年間売上の推移

- ・平成2年から10年毎の売上の推移をみると、平成2年から12年にかけて27%減少しており、襖紙(30%減)、証券紙(50%減)、奉書紙(50%減)の売上減少が主な要因である。また、平成12年から22年にかけては、53%と大きく減少しており、襖紙(70%減)、証券紙(95%減)の売上減少の影響が大きい。
- ・産地全体としては、売上を支えていた襖紙、証券紙に代わる需要の確保が課題であると考えられる。

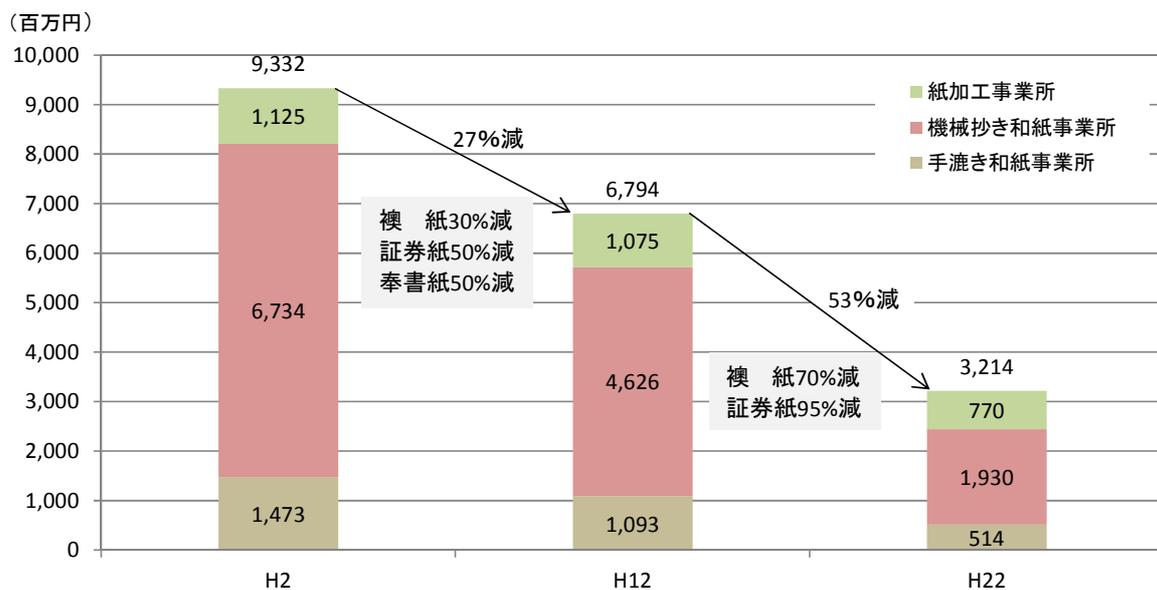


図 年間売上の推移と主な要因

③組合員数及び社員数の推移

- ・組合員数及び社員数ともに減少傾向が続いている。特に、社員数は平成12年から22年にかけて大きく減少しており、平成2年から半減している。

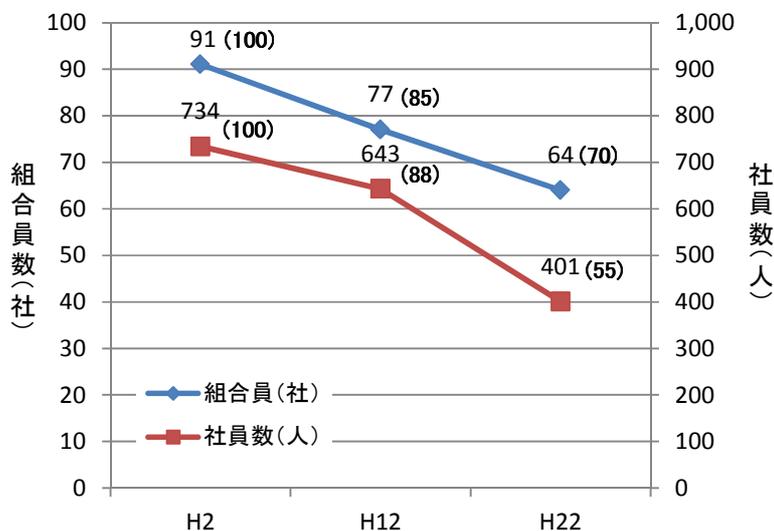


図 組合員数及び社員数の推移 () は H2 を 100 とする指数

④和紙の里入館者数等

- ・和紙の里の有料ゾーン（紙の文化博物館、卯立の工芸館）の入館者数は、近年2万2千人前後で推移しており横ばい傾向である。
- ・パピルス館における体験者数は、平成22年度以降増加傾向にあり約2倍にまで増加した。旅行会社との連携効果が現れている。
- ・売店の売上はリニューアルした平成23年から増加傾向にある。

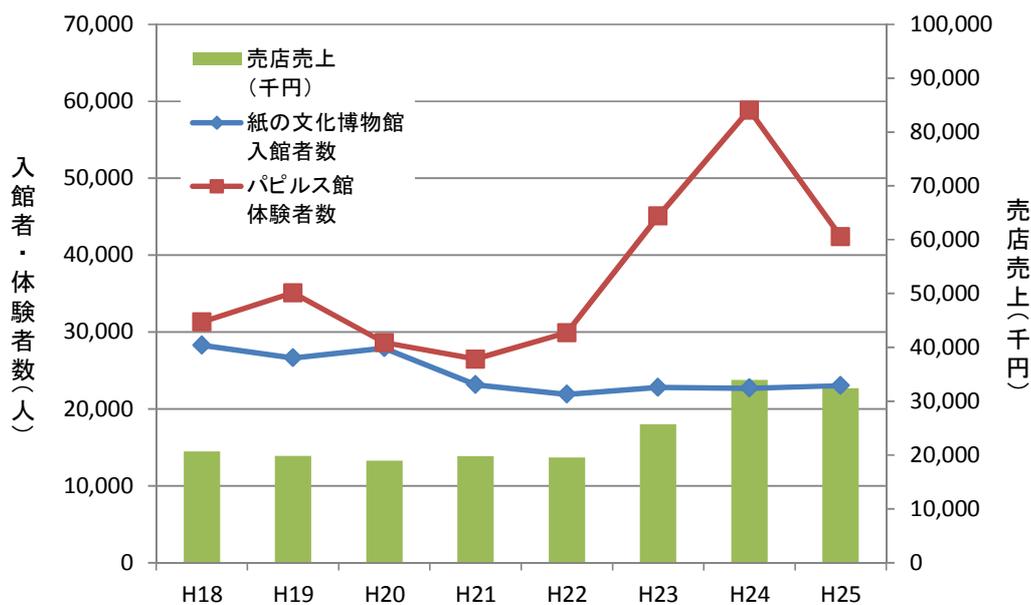


図 和紙の里の入館者・体験者数

(3) 産業としての現況整理

産業としての現況整理（越前和紙）

		S 強み	W 弱み
内部要因		<ul style="list-style-type: none"> ・ 1500年の歴史を有する。 ・ 紙祖神（川上御前）を祀る岡太神社があり「神と紙のまつり」があるなど、産地の絆が強い。 ・ 江戸幕府の公用紙、明治政府の紙幣に使われるなど生産技術は最高水準 ・ 横山大観、竹内栖鳳等の日本画家と交流 ・ 機械抄き、手漉き、様々な和紙が供給可能「紙は越前に頼めば何とかできる。」 ・ 流通は地元の産地問屋が機能 ・ 鳩居堂の商品の素材、とらやの包装紙に使われるなど、品質は理解されている。 ・ S51に伝統的工芸品に指定 ・ H25に制作用具・製品が国の重要有形民俗文化財に指定 ・ 和紙の里（文化博物館、パピルス館、卯立の工芸館）が存在し、入込数は横ばい ・ 後継者育成のための宿泊、体験施設が機能 ・ ブランディングへの取組が活発（海外展、国内の展示会等） <p>※H25：売上 30 億 手漉き事業所 31 社 127 名 機械抄き事業所 23 社 168 名 加工所 15 社 合計 60 社 360 名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 襖紙と証券紙の需要が激減 H2：90 億円→H25：30 億円 H2：750 人→H25：360 人 ・ 襖紙と証券紙の大きな需要の代わりになるものが見つかっていない。 ・ 壁紙はビニールクロスと競合し価格面で負ける。 ・ 需要の減少により単価が下がっている。 ・ ニーズの多様化、専門化により、問屋による商品開発、販路開拓は難しい状況 ・ エンドユーザーに近い会社と生産者がコミュニケーションできていない。 ・ 生産者が新商品を開発しても販路が無い。 ・ 将来の需要が見えないまま、機械の更新時等に廃業する傾向（新規投資できない） ・ 最盛期の頃に設備投資が行われたため、稼働率が下がり経営のネックになっている。 ・ 越前和紙自体のブランド力、認知度が低い。 ・ 最終商品に「越前和紙」の名前が出ない。 ・ アイテムが多く宣伝が難しい。 ・ 手漉き和紙用具（簀桁）を作る職人技術が継承されていない。 ・ 後継者の育成に時間がかかる。
	外部要因	<p>○ 機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大手メーカーの生産ロットは大規模になっており、中ロットのニーズに対応可能な越前和紙がマッチする市場が存在する。 ・ 4年後に大瀧神社の1300年祭がある。 ・ 産地で原材料から作る動きが始まっている。（敦賀半島の雁皮採取等） 	<p>⊖ 脅威</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産業のグローバル化の中で生産効率の向上や生産拠点の海外流出が進み、伝統工芸の生産が大きく減少 ・ ライフスタイルの変化により和室文化が減り、襖紙需要をはじめとする和紙需要が減少 ・ 情報化の進展により証券が電子化され、大きな需要を喪失

(4) 越前和紙の課題

越前和紙の課題

課題 1. 越前和紙が持つ文化的価値の研究・発信が弱い

- ・ 全国の和紙産地の中で、越前和紙は 1500 年という長い歴史を誇り、高い品質と技術が評価され続けてきた産地である。
- ・ 紙の文化博物館には、国の重要有形民俗文化財に指定された歴史的な紙製品、製紙用具等超一級のコレクションがあるが、資料の研究が進んでおらず、展示設備が整っていない。
- ・ 歴史民俗資料館には、文化財指定を受けた三田村文書、加藤河内文書及び江戸～昭和の原紙等があり、歴史資産が分散している。
- ・ これらの資料の研究、整理を進め、展示発信していくことにより、和紙文化の中心的な地域であることの認知を高める必要がある。

課題 2. 襖紙・証券紙の減少をカバーするマーケティング、販路開拓が進んでいない

- ・ 襖紙と証券紙の需要が激減し、産地の売上が平成 2 年の 93 億円から平成 25 年には 30 億円まで減少している。
- ・ 大手製紙メーカーの生産ロットの大規模化が進む中、越前和紙の機械抄き工場では 1 日 1 トンの対応が可能であり、マーケットを見つめることにより新しい販路開拓が期待される。
- ・ 襖紙、証券紙等の大口の需要に対しては「産地問屋—襖問屋」の構造が機能していたが、中ロットのマーケットを開拓し、きめ細かい販路のネットワークを構築するためには、生産者と産地問屋が連携し、エンドユーザーに近い企業との商談機会を増やす等の取組により、販売ルートを拡大していく必要がある。

課題 3. 一般ユーザーに「越前和紙」ブランドが浸透していない

- ・ 越前和紙の特性として、商品ではなく素材としての生産が多いことから、一般ユーザーが「越前和紙」の名称に触れる機会が少なく、土佐和紙、美濃和紙、因州和紙等に比べてブランドが浸透していない状況にある。
- ・ 一方、鳩居堂の商品、とらやの包装紙等は越前和紙が使われており、和紙を専門的に扱う業者には越前の品質は理解されている。
- ・ 新しいマーケットを開発するとともに、交流人口の増大を図るためにも、「越前和紙」のブランド力を高めていく必要がある。

2. 越前打刃物の現況・課題

(1) 越前打刃物の特性

越前打刃物は、その歴史と技術が高く評価され、昭和 54 年（1979 年）に、刃物産地としては全国ではじめて伝統的工芸品の指定を受けている。越前打刃物は、「二枚広げ」「廻し鋼着け」という技法を使って、現在も切れ味の鋭い包丁や薙込はさみ、鎌などを作っている。

二枚広げ（包丁）は、二枚重ねて裏と表から打ち、二枚が同様に薄く延びるよう手早く作業する工程である。二枚を重ねることによって厚みが倍になるため、温度が下がりにくくなり、製品の板ムラが少なくなることで品質をあげている。

廻し鋼着け（鎌、薙込み鋏）は、千代鶴国安が考案したと伝えられている。越前打刃物の鋼着けの鋼の置き方は、「柁置法」と呼ばれ、地金と鋼を鍛接した後、鋼の片隅から全体を菱形につぶす方法である。鋼をより薄くすることができるので、研ぎやすく良い刃を付けることが可能である。これは、全国の産地で一般的に行われている「平置法」の製品に比べて、鍛造技術の上で相当の熟練を要し、優秀な製品をつくることができる。



(参考) 中小企業庁ジャパンブランド事業の活用

- ・新しい技術を駆使した「素材」、歴史に裏打ちされた技術・技法を有する「製造」、世界に向けた「流通」が一つにまとまり、長期的な視野を持って国内外へ発信する中小企業庁のジャパンブランド事業を活用し、越前ブランドプロダクツ・コンソーシアムを設立し、越前打刃物が世界的なブランドとして確立するため「i i z a」ブランドを立ち上げた。



ブランドロゴマークと製品



Metal handle



1110



1210



1310

(2) 産地の現況

①生産者の状況

- ・生産地として、池ノ上工業団地、タケフナイフビレッジに集積している。企業数は31社。
- ・年間売上は約7億円。社員数は104人である。
- ・打刃物協同組合の企業は社員数10人前後の企業が2社、それ以外は1～3人の企業である。
- ・タケフナイフビレッジは、1社あたりの社員数が2～3人の企業が多く、機械などを共同で使う共同工房方式である(独立し生産拠点を他に移した企業も組合に加入しているケースがある。)

表 越前打刃物の企業状況

	事業所数(社)	社員数(人)	年間売上(百万円)	1社あたり社員数(人)	1社あたり年間売上(百万円)	1人あたり年間売上(百万円)
越前打刃物協同組合(池ノ上、他)	12	29	393	2.4	32.8	13.6
タケフナイフビレッジ協同組合	10	34	204	3.4	20.4	6.0
非組合員	9	41	99	4.6	11.0	2.4
合計	31	104	696	3.4	22.5	6.7

注：事業所数は平成25年4月の時点の事業所(卸を除く。) 社員数、年間売り上げは平成24年度

②事業所数の推移

- ・工業統計調査分類における「利器匠具・手道具・農機具製造業」データをみると、福井県における従業員数4人以上の事業所はそのほとんどが越前市内にある。
- ・事業所数の推移をみると、平成14年から平成20年までは、ほぼ横ばいであるが、平成21年以降は、やや減少して推移している。

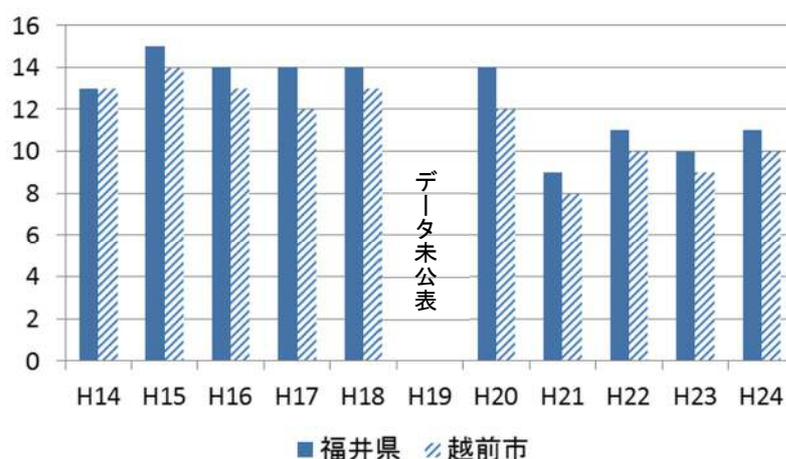


図 福井県・越前市における利器匠具・手道具・農機具製造業*事業所数の推移(従業員4人以上)

資料：工業統計調査各年版(H23のみ経済センサス)

利器匠具・手道具・農機具製造業には以下の製造業が含まれる。
理髪用刃物、ほう丁、ナイフ類、はさみ、工匠具、利器工匠・手道具、農業用器具。ただし、農業用機械は除く。

③出荷額の推移

- ・製造品出荷額等は、平成 18 年までほぼ横ばいで推移していたが、平成 20 年に増加し、その後、減少傾向にある。

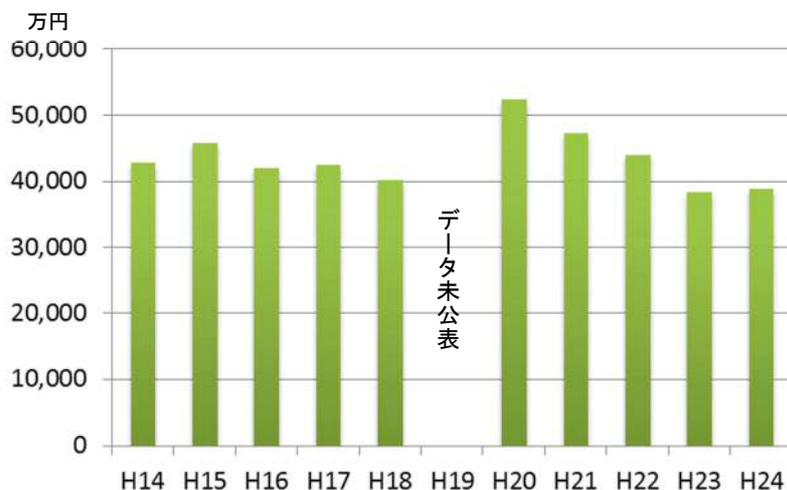


図 福井県における利器匠具・手道具・農機具製造業の出荷額等の推移(従業員 4 人以上)

資料:工業統計調査各年版(H23のみ経済センサス)

利器匠具・手道具・農機具製造業には以下の製造業が含まれる。
理髪用刃物、ほう丁、ナイフ類、はさみ、工匠具、利器工匠・手道具、農業用器具。ただし、農業用機械は除く。

④タケフナイフビレッジ入場者数

- ・打刃物の観光交流拠点は、タケフナイフビレッジが中心である。
- ・入場者数、観光バス台数の推移をみると、平成 20 年までは増加傾向にあり入場者が 27,000 人を超えたが、リーマンショック等の影響により平成 21 年に大きく落ち込み、その後も減少傾向が続いている。

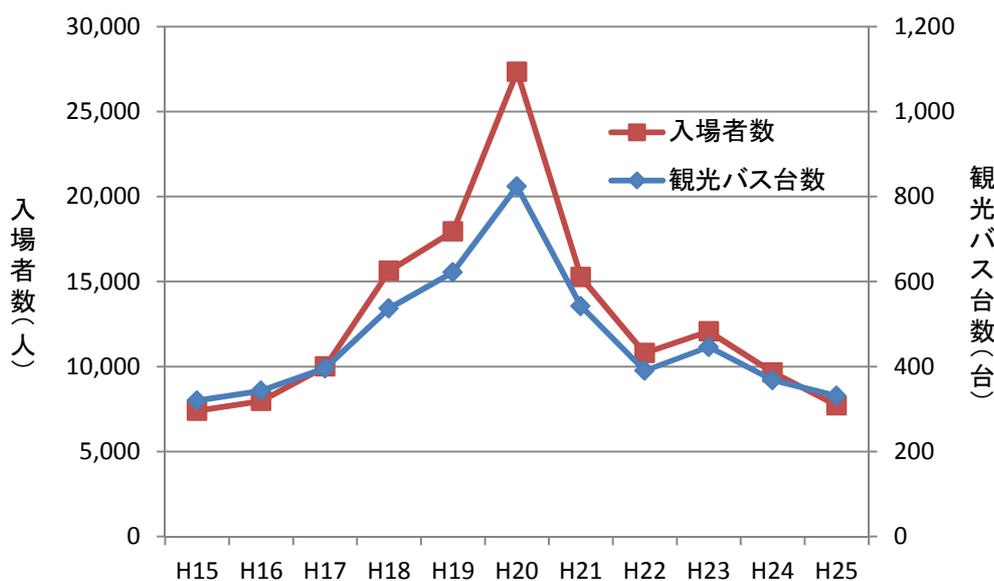


図 タケフナイフビレッジ入場者

(3) 産業としての現況整理

産業としての現況整理（越前打刃物）

		S 強み	W 弱み
内部要因		<ul style="list-style-type: none"> ・ 700年の歴史を有しており、S54に伝統的工芸品に指定（刃物では全国初） ・ 出荷額はH20に増加し、その後減少傾向にあるものの10年前の水準を保つ。 ・ 海外の需要が伸びている。 ・ ハンドメイドの鍛造生産に徹しており、クオリティ（切味、強さ）は世界トップ ・ 材料メーカーが産地にあるため、いち早く開発が可能 ・ 若手の就職希望者が多い。 <p>[池ノ上工業団地]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外やインターネット需要が増えている ・ ODMが多く産地ブランドが弱かったが、近年商品のブランディングが進む。 ・ 組合の売店の売り上げは横ばい。リピーターも多い。 <p>[タケフナイフビレッジ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 売り上げは堅調 ・ 新商品の開発、後継者の育成は軌道にのっている。 ・ 共同工房体制が機能し好循環を生んでいる。 ・ ブランドの知名度が上がっている。 ・ 組合員はいつも顔を合わせる仲間 ・ 海外への販売は6～7割 ・ 生産はフル稼働状態 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所数は近年横ばいであったが、H21～やや減少 ・ ホームセンターへの流通等、刃物のボリュームゾーンは大手に握られている。 ・ 問屋機能が変化（在庫を持たなくなった） ・ 海外対応できる産地問屋は無い。 ・ 材料費が高くなっている。 ・ 地元の人に浸透していない。 <p>[池ノ上工業団地]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃業が増えている。2、3年のうちに70～80代の方が廃業される。 ・ 鎌の需要が減り、生産者も減っている。 ・ 設備が古くなってきている。 ・ 営業する人がいない。 ・ 海外の展示会で好評であるが、その後のフォローができていない。 ・ 交流人口に見てもらふ拠点が無い。 <p>[タケフナイフビレッジ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多品種少量が進み手間がかかる。 ・ 問屋を通さなくなり製品化の手間が増えている。 ・ 建物・売店が手狭になっている。 ・ 若手が独立していくスペースが必要 ・ H20に入場者数、観光バス台数が伸びたが、その後減少傾向にある。
	外部要因		<p>○ 機会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の刃物の評判が海外で高い。 ・ ネット販売の定着により、問屋に頼らなくても販路の構築が可能になっている。 ・ 海外でメンテナンス職人の需要が大きい。

(4) 越前打刃物の課題

越前打刃物の課題

課題1. 海外の需要が伸びているが販売ルートやマーケティングが脆弱

- ・出荷額を維持している大きな要因は、海外での販売拡大である。アンビエンテ等の海外展示会で好評を得たことにより、海外商社への販売ルートが生まれている。
- ・しかし、海外見本市で得た人脈を活かした販路開拓や、現地でのメンテナンス需要への対応は不十分であり、海外におけるマーケティング機能は脆弱であると考えられる。
- ・海外需要の拡大を一時のブームで終わらせないために、海外拠点の設置を試み、現地商社とのコミュニケーションを深めながら、海外販売を戦略的に進めることが必要である。

課題2. 産地問屋の機能が弱体化する中で国内流通の販路開拓ができていない

- ・越前打刃物の流通は、以前は産地の問屋が生産者から全て買い取る方法であった。しかし、刃物の販売形態が個人商店からホームセンターへと移行する中で、包丁等の製品シェアの多くは国内の大手メーカーに占められ、越前打刃物の国内流通量が激減している。
- ・付加価値の高い包丁、ナイフが海外や国内の専門店向けの市場へ特化していく中、一般の包丁や農園芸用刃物は、販路の開拓ができていない状況である。
- ・越前打刃物全体の産地構造を維持するためには、一般の包丁や農園芸刃物の国内販路の開拓を進めていく必要がある。

課題3. 若手職人の独立の場所、交流の場所が少ない

- ・越前打刃物において若手の就職希望者が増えており、タケフナイフビレッジでは独立の場所が不足している。また、池ノ上工業団地では、若手職人同士の交流が少なく、人材育成や産地活性化の上で課題となっている。
- ・産地の特性に合せ、若手職人が生き活きと仕事に取り組める場の創出が求められている。

課題4. 観光の魅力が不十分

- ・タケフナイフビレッジでは、打刃物の生産現場の臨場感が伝わってくる工房見学をはじめ、体験、買い物ができるが、観光客の入込や滞在時間は伸び悩んでおり、新しい観光ニーズに対応できる取組が求められている。
- ・池ノ上工業団地では、刃物を販売するスペースはあるものの、観光客がゆっくり買い物を楽しむ空間として、さらなる工夫が求められる。

3. 越前箆笥（指物）の現況・課題

（1）越前箆笥の特性

越前箆笥は、品質の高さを誇っており、「武生の箆笥は2割は高い」と言われるほど値も高いが、それに見合った質の高さを誇っていた。武生で婚礼の箆笥を仕入れることは女性の憧れであり、「タンス町通り」は多くの人達が嫁入り道具を求めて賑わった。

越前箆笥の起源は、定かではないが、法隆寺にある国宝、橘夫人厨子（7～8世紀）の台座に、「越前」と筆で墨書されており、この厨子の製作に関わった越前の工匠が描いたものであると考えられている。渡来人とともに様々な技術・文化がこの地に伝わった歴史を鑑みると、箆笥の起源も古代近くに遡るものと推察される。

越前箆笥の特徴を表すものの一つが金具である。1819年に製作された車箆笥と、1880年代の車箆笥、現在の金具を比較すると、形がほとんど変わっておらず、輪郭にハートマークや花びしのモチーフが用いられ、座金は菊花やれんげの模様が使われている。これらの金具は、分厚い地金を叩いて伸ばしていく打刃物の技術が取り入れられており、かすかに波打つ鍛鐵の表情が独特である。鍛えられた鉄は、不純物も少ないため錆びにくく、古い府中箆笥の金具の多くも錆びずに残っている。

基本構造についても江戸時代後期よりほとんど変わっておらず、框のしっかりとした箆笥が作られてきた。板組箆笥に使われる技術の一つが五枚組み接ぎで、越前箆笥では金具で補強されることが前提であるため五枚組み接ぎが主流である。

車箆笥は、火事から家財を守るために車をつけることによって持ち運びができるよう考えだされたものであるが、そのために乱暴に扱っても壊れないように枠組で作られている。引き手は角手または蕨手、蛭手を用い、材料は樺で、赤味の強い木地呂塗で仕上げられることが多い。

越前箆笥は、平成25年に越前和紙、越前打刃物に次いで、越前市では3つめの国の伝統的工芸品に指定された。民芸箆笥の指定は少なく、岩谷堂箆笥に続き全国で2例目である（他は桐箆笥である。）。



(2) 産地の現況

①生産者の状況

- ・ 1社あたりの社員数は、3.4人であり、小規模な事業所が多い。
- ・ 箆笥の製造のほか、家具全般、建具、作り付け家具の製造が多い。
- ・ 製造販売を一貫して行っている事業所が多い。

表 越前指物の企業状況

	事業所数 (社) ^{※1}	1社あたり社員数 ^{※2} (人)	1人あたり年間売上 ^{※2} (百万円)
越前指物	23	3.4	7.9

注1：越前指物組合の組合員数

注2：越前市で把握している企業に限定した値

②事業所数の推移

- ・ 越前市（平成16年以前は旧武生市と旧今立町の合計）の家具・装備品製造の事業所数（従業員4人以上）は、平成18年までは横ばいの傾向であったが、それ以降減少傾向に転じており、平成14年から24年にかけて約53%減少している。

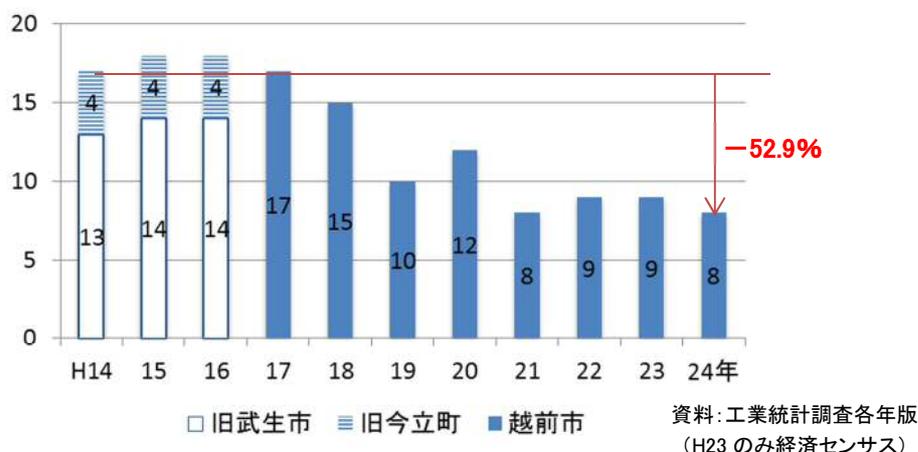


図 越前市における家具・装備品製造業事業所数の推移 (従業員4人以上)

③従業員数の推移

- 越前市（平成16年以前は旧武生市と旧今立町の合計）の家具・装備品製造の従業員数（従業員4人以上）は、平成19年までは横ばいの傾向であったが、それ以降減少傾向に転じており、平成14年から24年にかけて約53%減少している。

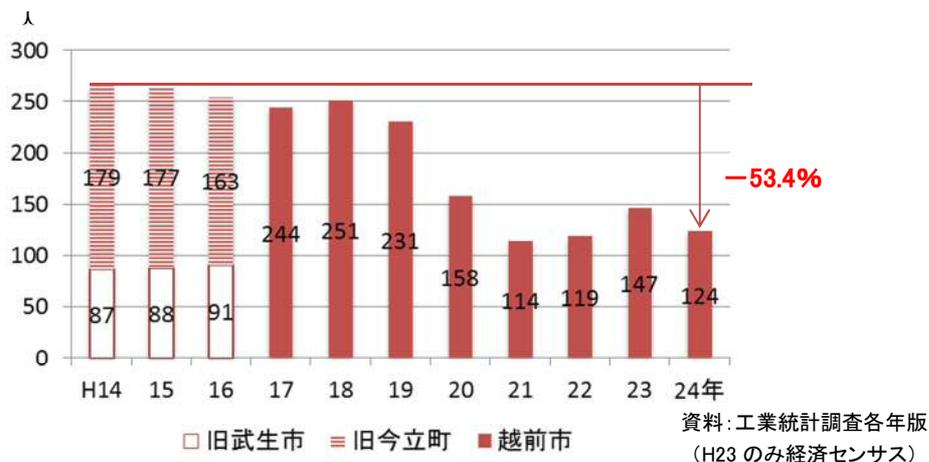


図 越前市における家具・装備品製造業従業員数の推移（従業員4人以上）

④出荷額の推移

- 越前市（平成16年以前は旧武生市と旧今立町の合計）の家具・装備品製造の出荷額（従業員4人以上）は、平成19年までは横ばいの傾向であったが、平成20年に大きく減少しており、平成14年から24年にかけて約56%減少している。

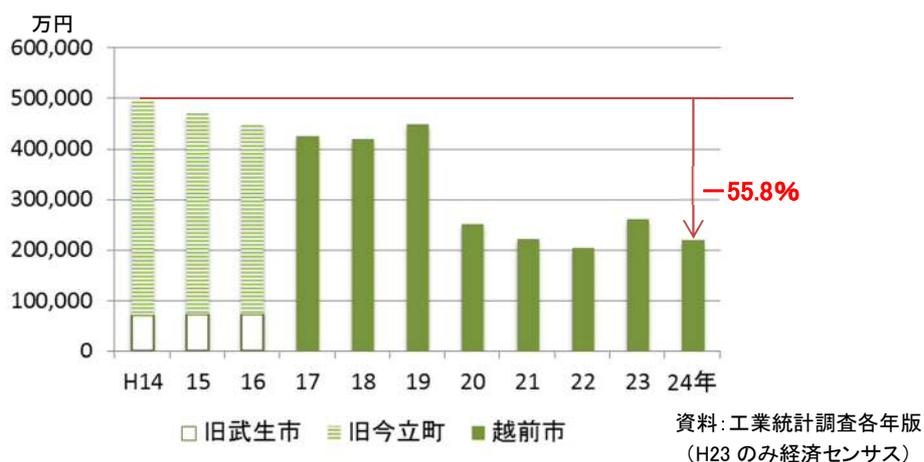


図 越前市における家具・装備品製造業出荷額の推移（従業員4人以上）

(3) 産業としての現況整理

産業としての現況整理（越前箆笥（指物））

	S 強み	W 弱み
内部要因	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代末期から製造が始まる。 H25 に伝統的工芸品に指定、これからいろいろやろうという時期 中心部に「タンス町通り」があり、家具店が集積している形態が全国的に珍しい。 工務店からの発注で作り付けの家具需要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 越前市における家具の事業所数、出荷額は約 10 年で半減。最近 5 年間は横ばい。 家具や建具、作り付け家具等の販売が多く箆笥自体の生産は小さい。 それぞれの企業が力をつけないと続かない。 職人が少なくなっている。 若手の職人が少ない。 ブランドが定着していない。 タンス町通りで、観光客の受け入れ態勢が弱い。 組合の事務局機能が弱い。
	O 機会	T 脅威
外部要因	<ul style="list-style-type: none"> H25 に国の伝統的工芸品の指定を受けた。 経済的に余裕のある高齢者が増えておりターゲットになると考えられる。 町家をリノベーションシカフェにするケース等が増えており需要につながる。 市内に和紙や打刃物があり連携も可能 	<ul style="list-style-type: none"> 生活者のライフスタイルの変化により和室が減っており、箆笥の需要が減少 冠婚葬祭の習慣が変わりつつあり、婚礼家具需要が低下

(4) 越前箆笥（指物）の課題

越前箆笥（指物）の課題

課題1. 高度な指物技術や越前箆笥の意匠が新商品の開発に活かされていない

- ・オーダー家具、作り付け家具等の需要が中心になりつつあり、越前箆笥自体の販売は少なく減少傾向にある。
- ・一方、伝統的な箆笥の販売額を伸ばしている産地もあることから、越前箆笥の可能性は大きいと考えられる。
- ・指物技術、越前箆笥の意匠を活かし、新しいマーケットに対応した商品開発を進め、販売額を伸ばすことが重要である。

課題2. 越前箆笥（指物）のブランドが定着していない

- ・経済産業大臣指定の伝統的工芸品に指定されたが、他産地の箆笥との違いが消費者に伝わっておらず、ブランドが定着していない。
- ・新商品の開発や流通方法の工夫、タンス町界隈のまちづくり等を進めることにより、越前箆笥（指物）の知名度を高め、ブランドを定着させることが必要である。

課題3. タンス町通りの交流機能が弱い

- ・タンス町通りは現在も箆笥店が集積しているが、まちなみ景観や買い物、飲食などの交流機能が十分ではない。
- ・蔵の辻等と連携し、市民が遊びに来るとともに、観光客も訪れたいまちづくりを進めることにより、タンス町通りが越前箆笥（指物）の展示場としての本来の機能を取り戻すことが必要である。

課題4. 若手の定着と組合事務局機能の強化が求められる

- ・越前箆笥（指物）の職人の高齢化が進んでおり、後継者の確保と若手職人の技術力、企画力、販売力の強化が求められている。
- ・また、国指定の伝統的工芸品の産地として、国・県・市の補助金を活用しながら、事業を展開できる事務局機能の強化が求められる。

4. 三産地以外の伝統産業の現況

(1) 織物（繊維産業）

1500年前に越前の地で始まった織物は、今日、福井県の広い地域において合成繊維の産地を形成するに至っている。繊維産業は、原糸→テキスタイル（撚糸・織物・染色）→アパレルという製造工程を辿るが、福井産地は、「テキスタイル」工程を担っている。

福井県の特産工業品である絹・人絹織物、細幅織物の状況をみると、平成24年度工業統計調査で越前市の事業所数は32事業所、出荷額は約40億円であり、平成14年度と比較して事業所数は4割減、出荷額は5割減である。

表 繊維産業（絹・人絹・細幅織物）の状況

	事業所数			出荷額(万円)		
	H14	H24	増減	H14	H24	増減
福井県	387	219	-43%	6,028,695	3,801,048	-37%
越前市	53	32	-40%	798,367	402,667	-50%

資料：工業統計調査各年版（H23のみ経済センサス），従業者4人以上の事業所
絹・人絹織物、細幅織物の合計

(2) 越前漆器

1500年前から受け継がれている越前漆器は、江戸時代以降に蒔絵、沈金の技法を取り入れ装飾性の高い漆器として発達した。近代に入ると量産体制が整備され、旅館などの業務用漆器の販路開拓が成功し、全国有数の業務用漆器産地となった。

漆器産業の動向をみると、平成24年度工業統計調査で越前市の事業所数は4事業所であり、福井県全体に占める割合は約5%であるが、近年の出荷額等の落ち込みは他の産業と比較すると小さい。

表 漆器産業の状況

	事業所数			出荷額(万円)		
	H14	H24	増減	H14	H24	増減
福井県	102	85	-17%	506,150	476,392	-6%
越前市	6	4	-33%	—	—	—

資料：工業統計調査各年版，従業者4人以上の事業所
越前市の出荷額は、事業所数が少ないため秘匿値となっている。

(3) 越前瓦

江戸時代に生産が始まった越前瓦は、現在、福井県瓦工業協同組合加盟の事業所数が 16 事業所であり、うち半数は越前市の事業所である。福井県全体の出荷額は、平成 24 年工業統計調査で 8 億 5 千万円であり、平成 14 年から平成 24 年にかけて 45%減少している。

また、越前鬼瓦の生産も継承されており、インテリア用の小さな鬼瓦も販売されている。

表 瓦産業の状況

事業所数(組合加盟)		福井県の出荷額(万円)		
福井県	うち越前市	H14	H24	増減
16	8	156,120	85,458	-45%

資料:工業統計調査各年版, 従業者 4 人以上の事業所
組合員数は福井県瓦工業協同組合資料

第3章 工芸の里構想の基本方針

1. 越前市の伝統工芸の特性

(1) 伝統的工芸品の特性（三産地）

伝統工芸は、工芸作家の技と独創性により生み出される「美術工芸」と、伝統的な技や美を産業的に展開し量産化した「産業工芸」に大きく分けられる（下図参照）。

越前市の伝統的工芸品をあてはめると、美術工芸の領域は和紙作家による手漉き和紙作品や、刃物作家による打刃物であり、生産量は少ないが文化・ブランドとして継承することが重要である。

越前市の伝統工芸において中心となるターゲットゾーンは、美術工芸と産業工芸の間に位置しており、作家による一点モノではないが、ハンドメイド又はそれに近い高級品である。職人による手漉き和紙や高級機械抄き和紙、ハンドメイドの打刃物、越前筆筒（指物）等がこれにあたる。産地を支えるためには、この領域の生産量を確保することが重要であり、新技術やデザイン性の向上等による商品開発とともに、一定の量を販売できる販路開拓が求められる。

また、産業工芸の領域では、機械抄きの一般的和紙、農園芸用の打刃物、建具、一般家具等がある。産業構造やライフスタイルの変化の中で競争が激しい領域であり、全てを残すことは困難であるが一部は付加価値を高めながら産業として維持することが望ましい。



図 越前市の伝統工芸の構造

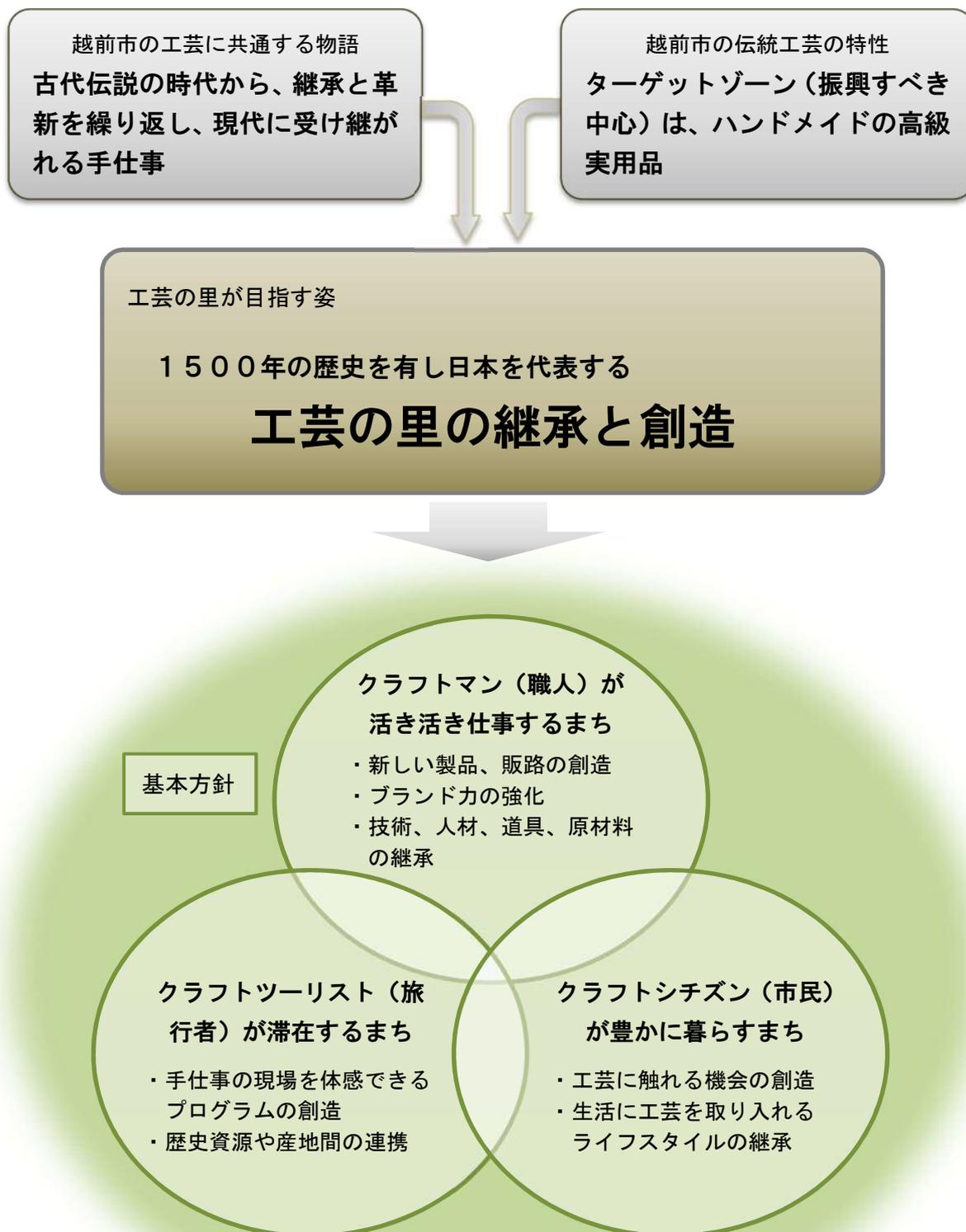
(2) 三産地以外の伝統産業の特性

織物に関しては、福井県は、合成繊維のテキスタイル産地（織物・染色）を形成しており、高機能・高品質のテキスタイル製造と、脱衣料（産業用資材）の動きがみられる。

越前漆器は、量産体制が進み、特に業務用漆器の販路開拓が進んでいる。越前瓦は、福井県瓦工業組合員が16名（市内8名）であり、廃瓦の有効活用や鬼瓦など地域ブランドの推進に取り組んでいる。

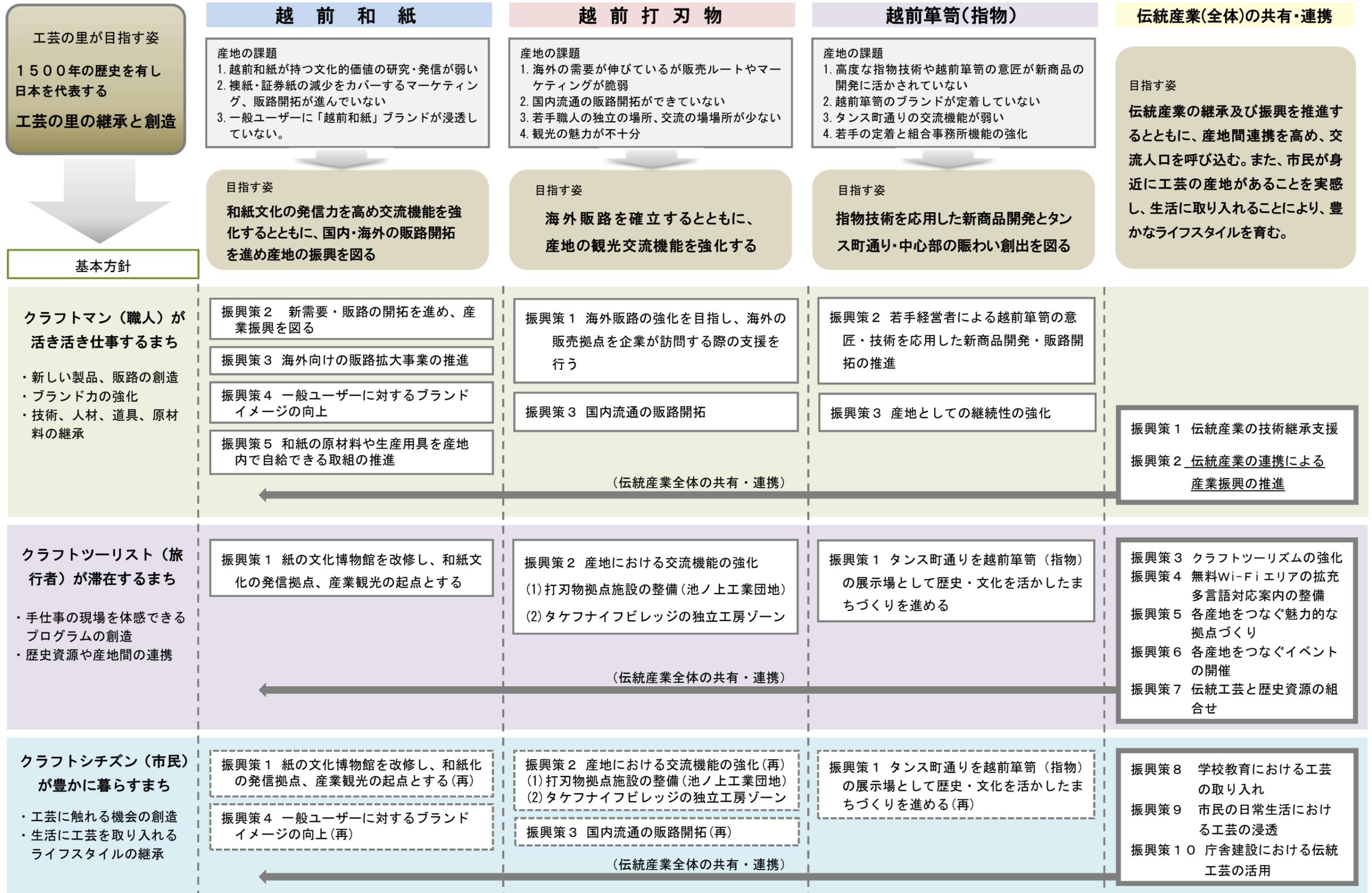
2. 目指す姿・基本方針

越前市の工芸の歴史物語や特性、各産地の現況と課題等から、越前市工芸の里が目指す姿、基本方針を位置づける。



3. 工芸の里構想の振興策

「各産地の現況と課題整理（第2章）」をふまえ、前述の「工芸の里が目指す姿」、「基本方針」から三産地及び伝統産業（全体）の共有・連携による「目指す姿」、「振興策」を整理する。尚、各々の振興策については第4章に記載する。



第4章 振興策と事業の例示

1. 越前和紙の振興策と事業の例示

1-1 越前和紙の目指す姿・将来像へのプロセス

越前和紙の産地として目指す姿

**和紙文化の発信力を高め交流機能を強化するとともに、
国内・海外の販路開拓を進め産地の振興を図る**

紙の文化博物館の改修を中心に和紙文化の再評価・発信を進めるとともに、消費者に近い企業との商談機会の強化、海外進出の推進により販路の開拓を進め産地振興を図る

■将来像へのプロセス

将来像：越前和紙ブランドの確立、販路開拓による生産維持

重点期間 H27～H31

クラフトマン（職人）が
活き活き仕事するまち

振興策2 新需要・販路の開拓を進め、産業振興を図る

振興策3 海外向けの販路拡大事業の推進

振興策4 一般ユーザーに対するブランドイメージの向上

振興策5 和紙の原材料や生産用具を産地内で自給できる
取組の推進

クラフトツーリスト（旅
行者）が滞在するまち

振興策1 紙の文化博物館を改修し、和紙文化の発信拠点、
産業観光の起点とする

クラフトシチズン（市民）
が豊かに暮らすまち

振興策1 紙の文化博物館を改修し、和紙文化の発信拠点、
産業観光の起点とする（再掲）

振興策4 一般ユーザーに対するブランドイメージの向上（再掲）

平成26年＝現在の状況 年間売上：30億円，組合加盟：60社

平成2年＝生産額のピーク時 年間売上：93億円，組合加盟：91社

振興策1 紙の文化博物館を改修し、和紙文化の発信拠点、産業観光の起点とする

(1) 紙の文化博物館の改修＝和紙文化の発信拠点

- 事業目的 全国に数ある和紙産地の中で、長い歴史、高い品質と技術を誇り、生産量が全国トップの産地として、和紙文化の総合的な発信を行う。
 特に、越前和紙を愛用した日本画家らの作品・書簡や、国指定重要有形民俗文化財指定を受けたコレクションが展示できるよう展示室のスペックを高める。
 また、収蔵品展示室（別館）の内容を見直し、越前和紙を用いた現代の様々なアーティストの作品を展示するとともに、ラウンジ空間を設け市民や観光客が休憩、商談等ができるよう工夫する。
- 事業主体 整備：越前市 運営：越前市が指定管理者（和紙組合）に委任
- 事業時期 H27～H28（福井県ふるさと創造プロジェクトを活用予定）

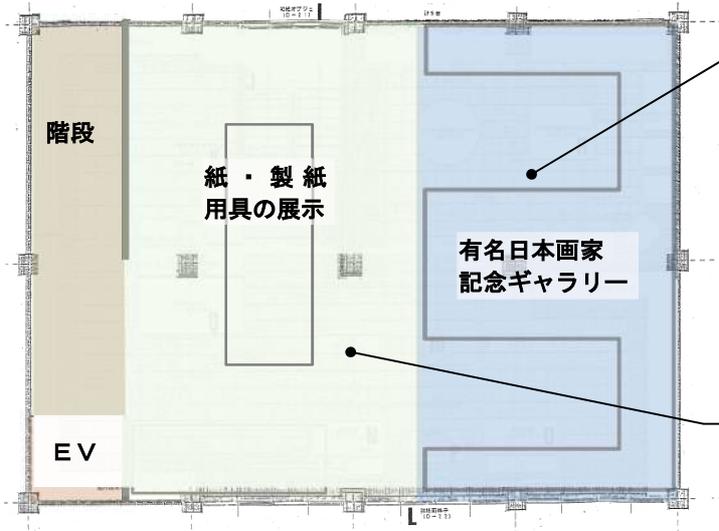
■紙の文化博物館改修の方向性（事業例）

紙・製紙用具の展示（本館2階）	・国指定重要有形民俗文化財である紙、製紙用具や歴史民俗資料館の文書等を展示するため、必要な基準を満たす照明、空調機能等を備えた展示室に改修する。
有名日本画家記念ギャラリー（本館2階）	・越前和紙を愛用した日本画家らの作品やそれらにまつわる書簡等、越前和紙産地ならではの貴重な資料の展示が行える照明、空調機能等を備えたギャラリーに改修する。
産地の様子の紹介（本館1階）	・現在の産地の様子、生産現場をデジタルアーカイブ等で紹介する。 ・興味を持った来館者に対しては、実際の生産現場の見学を取り次ぐ等、ガイダンス機能も強化する（事務スタッフが、製紙会社に連絡する等）。
有名アーティスト等展示ルーム（収蔵品展示室）	・平成成長尺大紙を自ら漉いて作品を制作した有名漫画家をはじめとして、越前和紙を用いた様々なジャンルのアーティストの制作作品の展示可能な多機能を有する展示ルームに改修する。
企画展・展示会場（収蔵品展示室）	・和紙の産地として柔軟に使えるスペースとする。 ・和紙生産者による新商品の展示会や、和紙作家の企画展を開催するなど、産業振興につながる空間とする。
和紙ラウンジ（収蔵品展示室）	・現代の生活に合った和紙の使い方（ランプ、壁紙、テーブルクロス等）を提案するとともに、幅広い利用ができるラウンジを整備する。 ・観光客は、休憩しながら和紙の資料に触れることや、和紙の手紙を書いて投函すると大瀧神社と和紙を漉いている様子の記念印（消印）が押されて届くなど、和紙の楽しさに出会えるよう工夫する。 ・また、産地の方々が関係者等を和紙の里に案内した後、商談するなどの使い方も可能な空間とする。
留意事項	・バリアフリーへの配慮、できるだけフレキシブルに展示できる一体的な空間づくり、維持コストに対する配慮等

※今立総合支所改築（支所機能）との調整が必要

■機能配置イメージ例

紙の文化博物館 本館2階



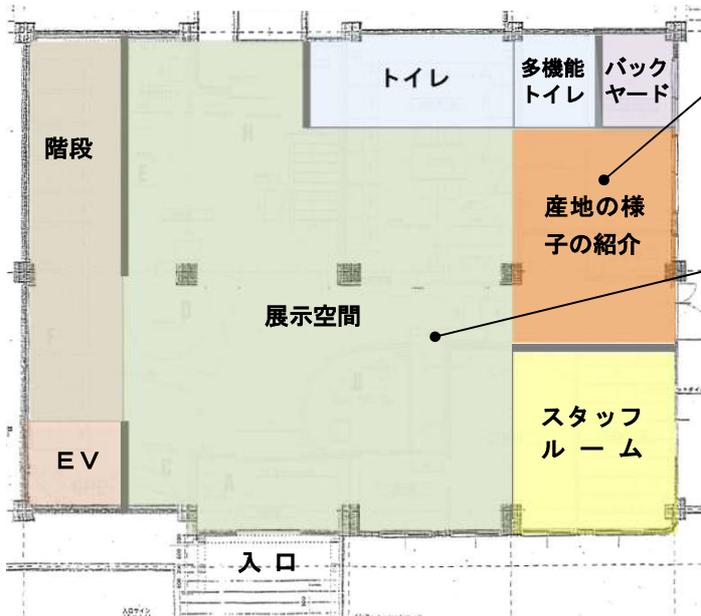
有名日本画家記念ギャラリー
越前和紙を愛用したアーティストの
作品、書簡を展示



紙・製紙用具の展示
文化財指定を受けた紙、製紙用具の
展示を中心とする文化発信



紙の文化博物館 本館1階



産地の様子の紹介

産地の様子、
生産現場を
デジタルア
ーカイブ等
で紹介



展示空間

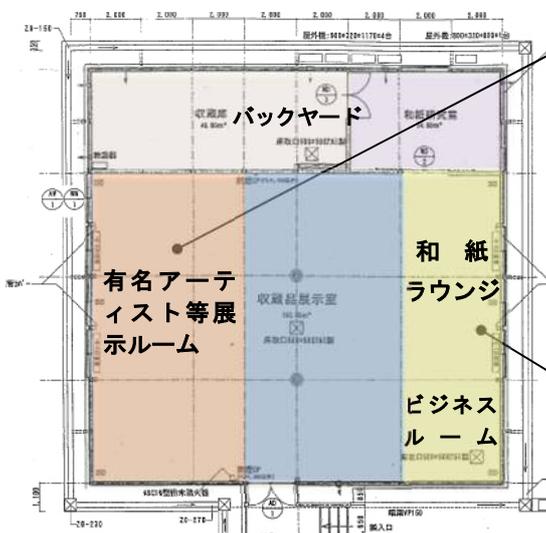
既存の展示物を中心に展示を再編

入口・事務室

入口や事務室
の開放感を高
める



紙の文化博物館 収蔵品展示室



有名アーティスト等展示ルーム
親交のあるアーティストの作品を展
示する



©I.T.Planning, Inc. 写真提供 Flower

和紙ラウンジ

和紙の生活提案
を行うとともに
観光客の休憩、
商談等幅広い使
い方ができる



振興策2 新需要・販路の開拓を進め、産業振興を図る(和紙生産者と消費者に近い企業との商談機会の強化等)

事業目的 越前和紙の産業特性である多様性を伸ばすため、各企業が持っている独自の技術、製品を基に、新しい需要・販路の開拓を進め、産地の産業振興を図る。
 企業規模として、生産とマーケティングを全て行うことが難しい企業が多いことから、産地全体として越前和紙のブランディングや地域外へのネットワーク強化を進める事業を行い、各企業又は複数の企業による連携的な主体が、新需要・販路の開拓を進める。

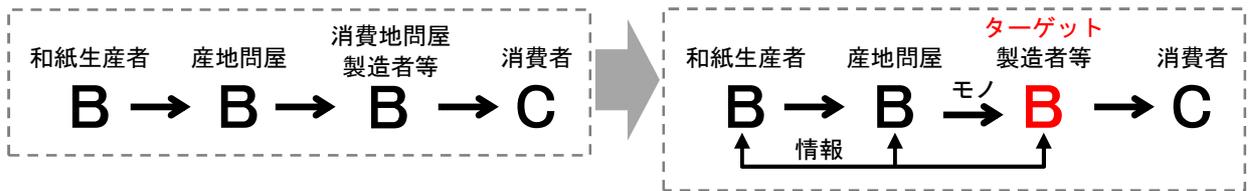
事業主体 産地全体の取組 和紙組合（事業実施） 越前市（事業支援）
 全体のコーディネートを行う専門家（必要に応じ依頼）

各企業の取組 企業が単独または連携で事業を実施 越前市（事業支援）

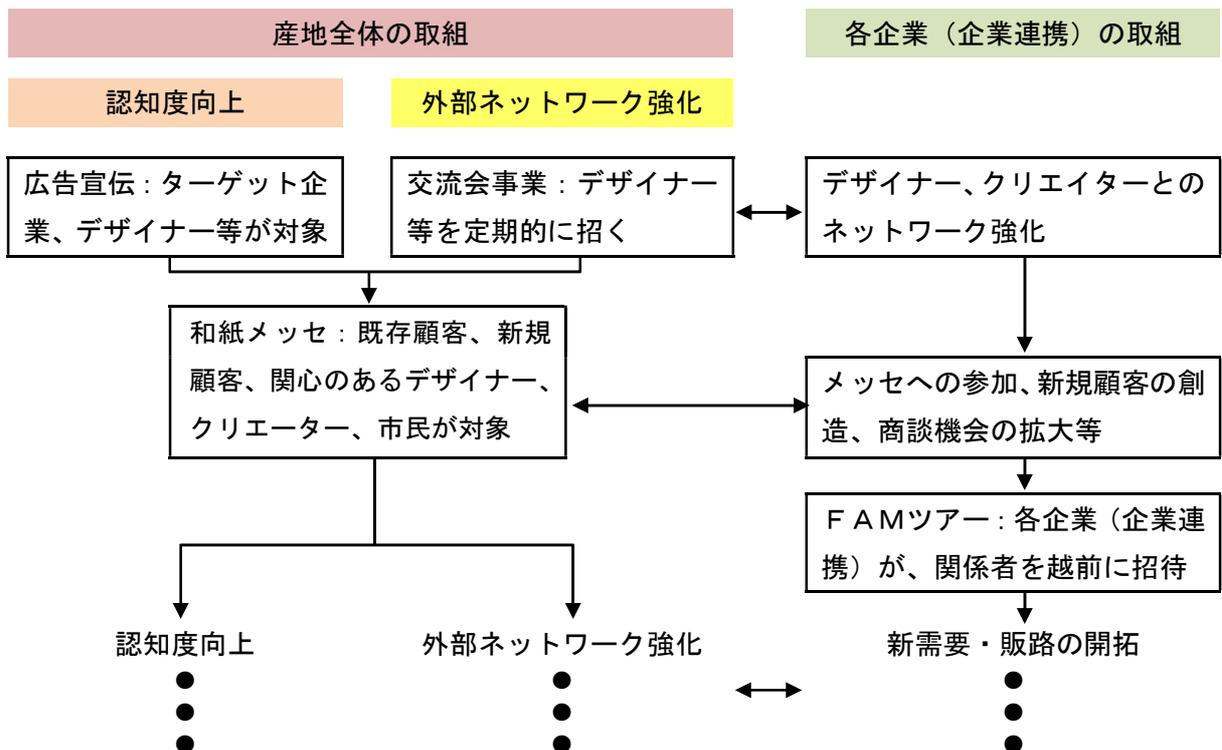
事業時期 H27～H31 事業成果を確認しながら内容・推進体制を見直す。

■事業の考え方

襖紙、証券紙等の大口の需要に対応していた従来の流通から転換し、中ロットのマーケットを開拓し、きめ細かい販路のネットワークを構築するために、生産者と産地問屋が連携し、消費者に近い企業（既存、新規）との商談機会を増やし、販売ルートを拡大していく必要がある（下図）。



■進め方（例示）



■事業例

(1) 広告宣伝：ターゲット企業やデザイナーへのブランド力向上

- ・『+ DESIGNING』、『日経デザイン』、『デザインノート』等、デザイナー、クリエイターが購読するデザイン系の雑誌に、「越前和紙」の広告を掲載する。
- ・広告代理店やデザイナーに発注し、越前和紙の魅力を伝え、新規顧客が関心を持つ内容とする。
- ・雑誌編集者との関係性を強め、越前和紙の取材記事を増やす機会とする。
- ・詳細な資料請求や問い合わせを産地で共有することにより、新しい顧客とのつながりを構築する機会創出とする。

(2) 交流会事業：プロダクトデザイナー、クリエイター等とのネットワーク強化

- ・国内外で活躍するデザイナー、クリエイターを定期的に越前市に招待し、講演会の開催や産地の見学を行うことをきっかけに、越前和紙のことを知ってもらうとともに、越前和紙関係者との人間関係をつくる。
- ・デザイナーのロコミで越前和紙の魅力を広げてもらうとともに、マッチングがうまくいけば、商品開発や販路開発に協力していただく。

例：佐藤オオキ氏（全国の伝統工芸の工房と連携した商品開発）、萩原修氏（つくし文具店代表、デザイン関連プロジェクトのディレクションの実施）、高橋理子氏（伝統デザインを活用した新商品開発）、柴田文江氏（伝統産業のブランド化）

(3) 越前和紙メッセ等見本市の開催

- ・越前和紙の生産者、産地問屋が一体となり、越前市や首都圏で和紙メッセを開催する。
- ・広告宣伝事業や交流会事業の成果を活かし、ターゲットとなる企業をリサーチし、足を運んでもらうよう工夫する。
- ・商談コーナーでは、生産者、産地問屋が連携し商談を進め、越前和紙に対するニーズを開き出し、後日サンプルを届ける等、実効性の高い新需要・販路開拓を行う。
- ・新規販路とあわせて既存販路のブラッシュアップも進める。



金沢ペーパーショー・竹尾のブース

(4) F A Mツアーの実施

- ・F A Mツアー（業界関係者を対象にした現地訪問ツアー）を定期的に開催し、ターゲットとなる新規企業、デザイナーを中心に、越前和紙の特性、文化性を伝えるプロモーションの機会とする。
- ・企業の単独開催又は複数の企業が連携した開催に対し、越前市が支援する。
- ・紙の文化博物館収蔵品展示室を改修した企画展・展示会場を活用するとともに、生産現場の案内、岡太神社の特別公開等を組み合わせ、魅力的なF A Mツアーを企画・実施する。

振興策3 海外向けの販路拡大事業の推進

事業目的	日本の伝統工芸が海外で評価されており、和紙に対する関心も高い。 越前和紙は、海外のハイクラス・レジデンス向けの販売（高級ホテルのロビー、ブランド店のショールーム、レストランの内装等）が進められているとともに、中国や台湾等における書家・画家の需要についても今後のターゲットと考えられている。 産地全体としての海外の展示会や見本市への出展支援を継続するとともに、企業が海外での販売、商談を行う際に、一定の支援制度を設け、海外向け販路拡大を促進する。 当面は、既に海外進出を進めている企業を支援し、将来的に産地の戦略として海外市場を確立する。		
事業主体	和紙組合（事業実施）	企業〔単独・連携〕（事業実施）	越前市（事業支援）
事業時期	H27～H31 事業成果を確認しながら実施する。		

■事業例

（1）海外販路拡大事業に対する支援制度

- ・越前和紙の企業（単独又は複数の企業が連携）が海外向けの販路拡大事業を行う際に、渡航費や会場費等に対し助成する制度を設ける。
- ・産地において海外のマーケット事情を情報交換する報告会等を開催する。

振興策4 一般ユーザーに対するブランドイメージの向上

事業目的	現在の越前和紙は素材産業としての側面が強いことから、最終製品として「越前和紙」であることが分からないケースが多い。一般消費者に対するブランドイメージの向上を図ることにより、最終商品を作る企業が越前和紙を使う機会を拡大するとともに、越前和紙ブランドの商品を増やす。		
事業主体	越前市（事業実施、事業支援）	和紙組合（事業実施）	福井県（協力）
事業時期	H27～H31 事業成果を確認しながら実施する。		

■事業例

（1）ユネスコ世界無形文化遺産「和紙：日本の手漉き和紙技術」の団体認定の推進

- ・「和紙：日本の手漉き和紙技術」のユネスコ無形文化遺産登録（代表一覧表記載）が決定したが、保持団体認定は石州半紙、本美濃紙、細川紙である。
- ・奉書や檀紙等の個別のジャンルにおける団体認定に向けた活動を推進することにより、越前和紙の認定を目指す。それにより、越前和紙の文化を後世に伝えていくとともに、一般ユーザーに対するブランドイメージの向上を図る。

※福井県では「日展」又は「日本伝統工芸展」への出品作品制作に補助金を出しており、福井県と連携した産地振興を進める。

（2）レンブラント研究の推進

- ・世界的に有名なオランダの画家レンブラントが、美術用紙として越前和紙を用いていた可能性が高く、オランダ・アムステルダム国立美術館と連携した調査、研究が進められている。
- ・レンブラント研究を一層進めることにより、紙の文化博物館における展示や越前和紙のブランド力向上を図るとともに、越前和紙の可能性を広げ販路開拓にもつなげていく。

(3) 和紙作家の活動支援強化

- ・越前和紙の人間国宝岩野市兵衛氏と写真家エバレット・ブラウン氏のコラボレーションや、越前和紙と写真家棚井文雄が連携した写真・映像展等、越前和紙の作家とアーティストのコラボレーション企画を支援するとともに、和紙作品を展示できるギャラリーを用意する等、和紙作家の活動支援を強化し越前和紙のブランドイメージの向上につなげる。



生活工芸プロジェクト「モノトヒト」(金沢)
作家が一月展示できる 30days labo



「うつす和紙 越前和紙の世界」
越前和紙×棚井文雄 2013N Y展

(4) メディアの誘致による情報発信

- ・大瀧神社の1300年祭を機に、メディアのTV番組等を誘致し、越前和紙の文化、生産現場等を広く情報発信する。

振興策5 和紙の原材料や生産用具を産地内で自給できる取組を進める

事業目的	原材料を自給できる取組を強化するとともに、生産用具の製作技術が途絶えないように、支援を強化する。		
事業主体	和紙組合 (事業実施)	越前市 (事業支援)	福井県 (事業支援)
事業時期	H27～H31		

■事業例

(1) 原材料の生産に対する支援強化

- ・和紙組合において原材料の自給を進める取組を進めている(楮・梶・三桮プロジェクト)。ブランドを牽引するためにも原材料から越前で作った和紙が必要であり、楮、三桮等の生産に対する支援策を強化する。

(2) 生産用具の製作に対する支援強化

- ・全国的に和紙の生産用具を作る職人が減っており、越前においても簀の職人が途絶えつつある。
- ・例えば簀の生産については、現在職人が健在な高知県に学びに行くなど、他の産地と技術交流することによる職人の育成に対し支援を強化する。

1-3 越前和紙の振興策の整理（事業主体・スケジュール）

振興策	実施主体	事業年度	事業例
1. 紙の文化博物館を改修し、和紙文化の発信拠点、産業観光の起点とする	整備：越前市 運営：越前市が指定管理者（和紙組合）に委任	H27～H28	(1) 紙の文化博物館の改修＝和紙文化の発信拠点
2. 新需要・販路の開拓を進め、産業振興を図る（和紙生産者と消費者に近い企業との商談機会の強化等）	実施：和紙組合 支援：越前市 ※必要に応じ全体のコーディネートを 行う専門家	H27～H31	(1) 広告宣伝：ターゲット企業やデザイナーへのブランド力向上
			(2) 交流会事業：プロダクトデザイナー、クリエイター等とのネットワーク強化
			(3) 越前和紙メッセ等見本市の開催
			(4) F A Mツアーの実施
3. 海外向けの販路拡大事業の推進	実施：企業 支援：越前市	H27～H31	(1) 海外販路拡大事業に対する支援制度
4. 一般ユーザーに対するブランドイメージの向上	実施：和紙組合 支援：越前市 協力：福井県	H27～H31	(1) ユネスコ世界無形文化遺産「和紙：日本の手漉き和紙技術」の団体認定の推進
			(2) レンブラント研究の推進
			(3) 和紙作家の活動支援強化
			(4) メディアの誘致による情報発信
5. 和紙の原材料や生産用具を産地内で自給できる取組を進める	実施：和紙組合 支援：越前市	H27～H31	(1) 原材料の生産に対する支援強化
			(2) 生産用具の製作に対する支援強化

2. 越前打刃物の振興策と事業の例示

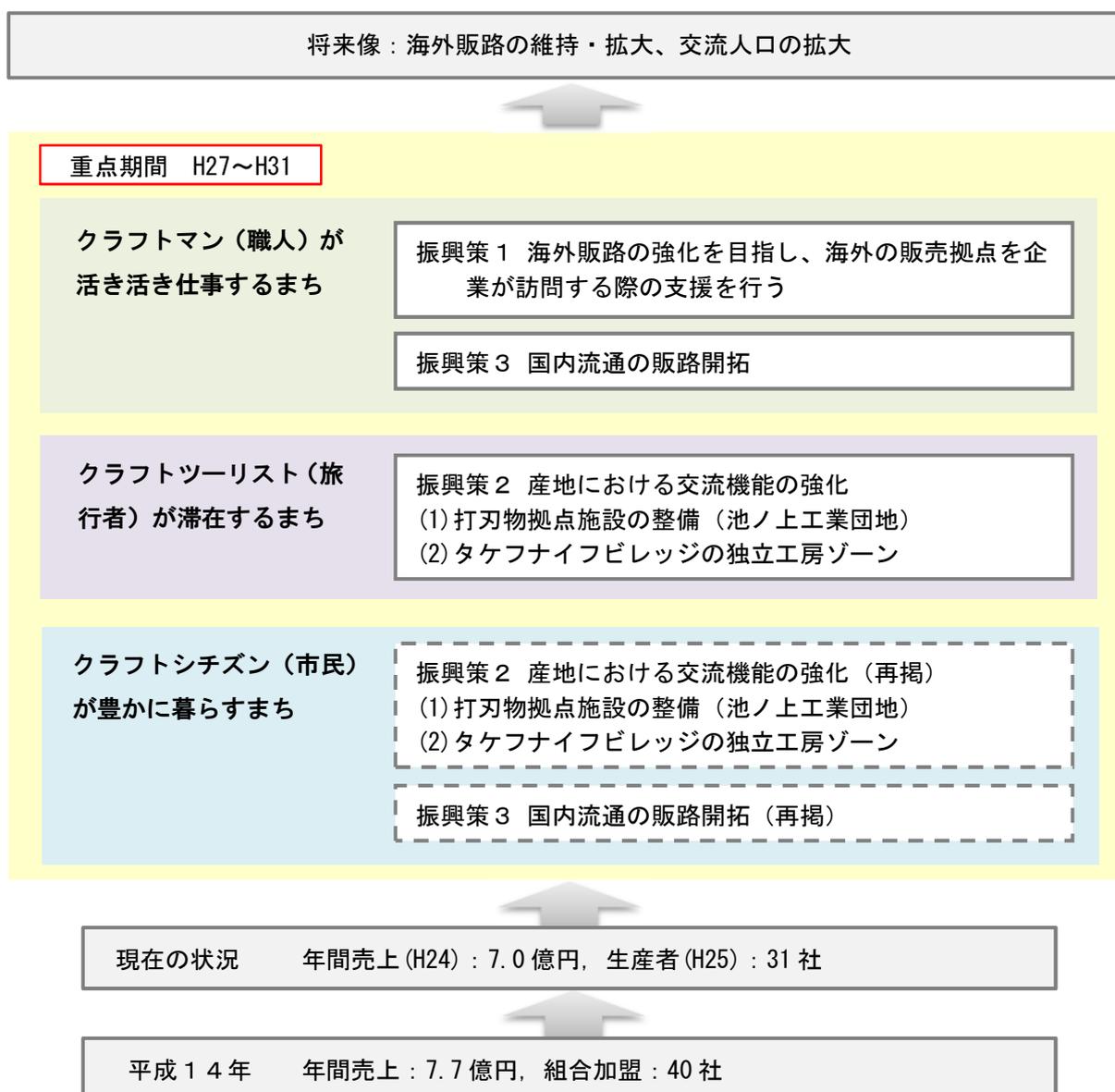
2-1 越前打刃物の目指す姿・将来像へのプロセス

越前打刃物の産地として目指す姿

海外販路を確立するとともに、産地の観光交流機能を強化する

海外への販売を主軸に置くために販路の強化を進めるとともに、タケフナイフビレッジ、池ノ上工業団地それぞれにおいて、交流機能を高めることにより産地を振興する

■将来像へのプロセス



3-2 越前打刃物の振興策・事業の例示

振興策1 海外販路の強化を目指し、海外の販売拠点を企業が訪問する際の支援を行う

事業目的	タケフナイフビレッジでは6割以上が海外への販売であり、池ノ上工業団地においても半分以上が海外販売の企業もある。海外への販路確立が産業振興として重要課題であり、企業の海外訪問を支援する。
事業主体	企業（事業実施） 越前市（事業支援）
事業時期	H27～H31 事業成果を確認しながら内容・推進体制を見直す。

■事業例

（1）海外販路拡大事業に対する支援制度

- ・打刃物の生産者が海外の販売拠点を訪問する費用を支援することにより、生産者と販売者のコミュニケーション機会の増大を図り、海外販路の強化を進める。
- ・海外で得た情報を産地で共有することにより、各企業の海外販売戦略を支援する。



事業イメージ：越前打刃物は、海外のシェフやハイアマチュア等に好評で生産者の来訪や砥ぎの実演等で直に交流できる機会を求めている。

振興策2 産地における交流機能の強化

(1) 打刃物拠点施設の整備（池ノ上工業団地）

- 事業目的 ハンドメイドの鍛造技術を継承している越前打刃物の歴史、工芸文化を発信するとともに、産地を訪れるファン層が打刃物のラインナップを手にとって見ることができ、試し切りもできる拠点を整備することにより、越前打刃物のブランド力を高める。
- 事業主体 整備：越前市
運営：越前市が指定管理者（越前打刃物産地協同組合連合会）に委任
- 事業時期 H28～H30

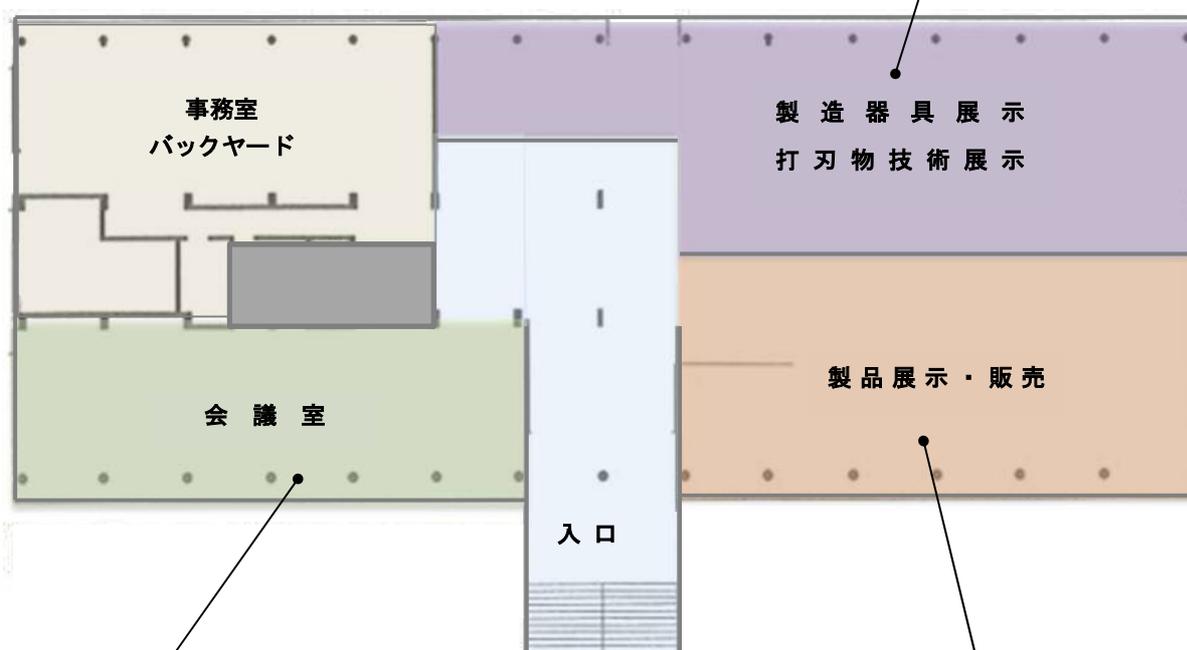
■事業内容（例示）

- ・ 打刃物の専門家、海外からのお客、業界関係者等と商談ができ、製造器具などのストックの展示、一般ユーザーへの販売、産地の若手職人が集う交流機能等を備える。

製品展示・販売 商談スペース	刃物の業界関係者、専門家、一般客、海外からのお客さんが、越前打刃物のラインナップを手にとって見ることができ、販売・商談ができるスペースを整備する。 各メーカーのPRは、それぞれのコーナーで映像資料等を用い独自に行う。 気に入った刃物を試し切りできるスペースを設置する。 ※食材を無駄にしないよう活用方法の検討も行う。
製造器具展示 打刃物技術の展示	産地に伝わる製造器具を展示するとともに、越前打刃物の製造工程や特性が分かる展示を行う。 ※ストックされている製造器具、映像資料等
技術交流機能	産地の若手職人が集い、産地活性化の議論や商品開発研究を行うなど、サロンの空間を用意する。

■配置イメージ例

展示空間
産地に伝わる製造
器具の展示
製造工程や特性が
分かる展示
映像資料等



会議室
若手の担い手が集まり、
技術交換やマーケティング
を議論する。

製品展示・販売
越前打刃物のライン
ナップを一堂に
見ることができ、
販売・商談ができ
る。
(出典：釜浅商店)



(2) タケフナイフビレッジの独立工房ゾーン整備〔生産・観光・体験〕

事業目的	共同工房型の生産体制が機能し、後継者が育っているタケフナイフビレッジにおいて、隣接地に「独立工房ゾーン」を整備し、若手職人の独立を支援する。
事業主体	整備：タケフナイフビレッジ協同組合 支援：越前市
事業時期	H29～H31

■事業内容（例示）

- ・「独立工房ゾーン」は、見学者と交流しやすい空間とすることにより、見学者と職人が直接会話を楽しむことができるなど、観光交流機能を高めながら、販売につなげる工夫を行う。
- ・また、現在の販売スペースが手狭なことから、直営ショップを拡大し、休日等は地元の野菜などを併せて販売できる空間を整備する。



製造過程をオープンファクトリー
で見せるSUWADAの例



大田区で実験的に実施している
オープンファクトリー

振興策3 国内流通の販路開拓

事業目的	国内流通の研究を行うことにより、クオリティの高い越前打刃物の販路の再編を検討する。 また、鎌に代表される農業用の刃物の生産が伸び悩んでいるが、技術継承の面からも需要創出が望まれており、他地域との連携による販路等を検討する。
事業主体	越前打刃物産地協同組合連合会（事業実施） 越前市（事業支援）
事業時期	H27～H31

■事業例

（1）国内流通の研究・販路開拓

- ・家庭用刃物や農園芸用刃物の国内販売ルートにおいて、切味がよく耐久性の高い越前打刃物の参入可能性について研究を行う。
- ・ホームセンターなど流通量の多い店舗に対する販路の現状を研究するとともに、参入方策を検討する。また、農園芸用打刃物では、品質の高さを活かした専門店への販路等についても検討を行う。

（2）全国の棚田保全と連携した鎌の生産支援

- ・越前打刃物の中でも鎌の生産は伸び悩み、作り手も減っている。しかし、鎌を作る技術は包丁よりも難しく、技術的な伝承が望まれる。
- ・農作業の機械化により鎌を使うケースが減っているが、棚田の収穫においては鎌を使う場合が多い。全国の棚田は、景観、歴史、文化的な側面から保全活動が進められており、棚田の保全において越前打刃物の鎌を使ってもらうことで、鎌の生産支援になる。
- ・具体的には、全国の棚田維持の活動団体等に越前打刃物の鎌を購入（又はレンタル）してもらい、鎌のメンテナンス（研ぎ等）費用は越前市が支援する等の制度を創設し、鎌の生産、メンテナンスの需要維持を図る。

2-3 越前打刃物の振興策の整理（事業主体・スケジュール）

振興策	実施主体	事業年度	事業例
1. 海外販路の強化を目指し、海外の販売拠点を企業が訪問する際の支援を行う	実施：企業 支援：越前市	H27～H31	(1) 海外販路拡大事業に対する支援制度
2. 産地における交流機能の強化	整備：越前市 運営：越前市が指定管理者に委任	H28～H30	(1) 打刃物拠点施設の整備 (池ノ上工業団地)
	整備：タケフナイフビレッジ 協同組合 支援：越前市	H29～H31	(2) タケフナイフビレッジの独立工房ゾーン整備
3. 国内流通の販路開拓	実施：越前打刃物産地協同組合連合会 支援：越前市	H27～H31	(1) 国内流通の研究・販路開拓
			(2) 全国の棚田保全と連携した鎌の生産支援

3. 越前筆筒（指物）の振興策と事業の例示

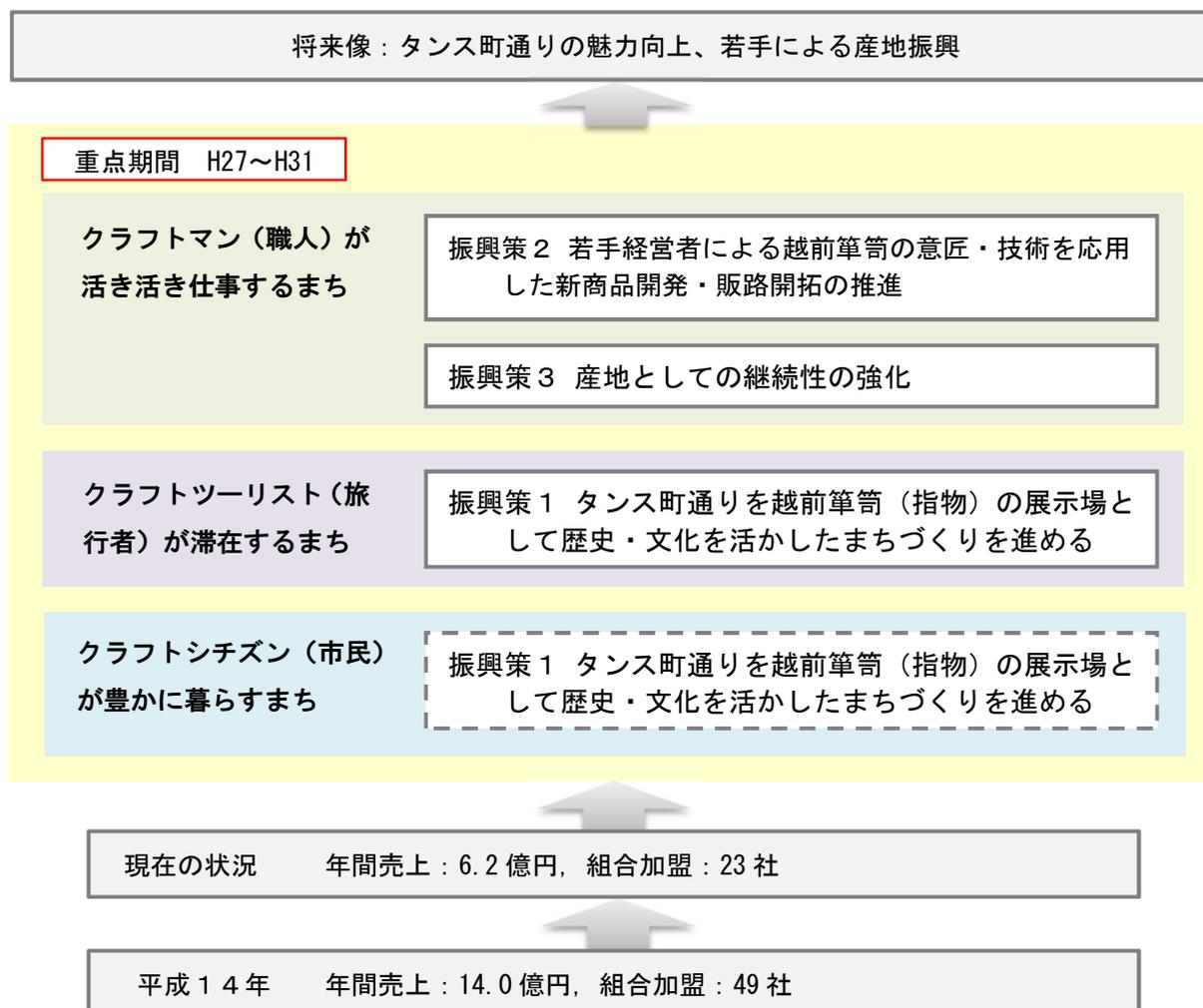
3-1 越前筆筒（指物）の目指す姿・将来像へのプロセス

越前筆筒（指物）の産地として目指す姿

指物技術を活用した新商品開発とタンス町通り・中心部の賑わい創出を図る

高度な指物技術を活用した新商品開発を進め、越前筆筒のブランド力向上を図るとともに、越前筆筒のシンボリックな空間として「タンス町通り」、中心市街地の賑わい創出を進める

■将来像へのプロセス



3-2 越前箆笥（指物）の振興策・事業の例示

振興策1 タンス町通りを越前箆笥(指物)の展示場として歴史・文化を活かしたまちづくりを進める

事業目的 元来、タンス町通りは、越前箆笥（指物）の展示場であり家具を求める人が集まってくる場所であった。タンス町通りの箆笥店の魅力向上を図るとともに、越前箆笥祭りを開催するなど、本来の展示場としての機能を強化し産業振興の発信拠点とする。

また、タンス町通りから、他の地域の家具工房へ人が流れる工夫を進め、産地全体の展示場として機能する通りを目指す。

事業主体 越前指物組合（実施） 四町まちづくり協議会（協力） 越前市（事業支援）

事業時期 H29～H31

■事業例

（1）タンス町境界のまちづくりの推進

- ・全国でも珍しい「タンス町通り」を活かし、越前箆笥（指物）の展示場、越前の工芸のショールームとしてのまちづくりを進め、交流人口の拡大、販売額の増加を目指す。
- ・第1に、タンス町通りの箆笥店の魅力向上を進める。建物前面の景観・しつらえを見直すとともに、ギャラリー空間のリニューアルを図る（越前市が改装、設備投資に補助する）。
- ・また、新しく越前箆笥（指物）の職人としてタンス町に工房を構える際に助成を行い、タンス町通りの箆笥店の集積を高めるとともに、後継者の確保、育成を進める（空家、空きビルを活用）。
- ・通りの魅力を高めるため、街なみ景観の魅力を高める整備を行う。加えて、越前のクラフトに関するギャラリー、ショップや飲食店を増やす（越前市が改装、設備投資に補助する）。
- ・各箆笥店が新商品の展示や接客を行うとともに、箆笥カフェ等の飲食店においてタンス町通り以外の箆笥店・家具工房を紹介することにより、産地全体の展示場として機能する。

（2）越前箆笥祭り（仮称）の開催

- ・タンス町通りにおいて、「越前箆笥祭り（仮称）」を開催し、越前市内外から伝統工芸や家具に関心のある層をタンス町通りに集める。
- ・タンス町通りは、歩行者空間とし、路上にて通り以外の家具店の新作展示や販売を行う。
- ・伝統的な花嫁行列等を実施することにより越前箆笥祭りの発信力を高め、新規顧客の獲得、ブランド力向上を目指す。

（3）市内の各イベントとの連携強化

- ・越前市内で開催されるイベント会場において指物組合のブース等を設置し、タンス町通りや各箆笥店のPRを行う。
- ・タンス町通りでは連動してミニイベントを開催するなど、市内で開催されるイベントと連携することにより、タンス町通りへの集客力を高める。

(4) 筆筒見学モニターツアーの実施

- ・旅行会社とタイアップし、越前筆筒（指物）の産地見学、体験と、越前の食を組み合わせたモニターツアーを造成する。その際に、旅の目玉となる拠点がタンス町通りである。
- ・モニターツアーの開催に対し行政支援を行うことにより、参加者は格安で越前市に来ることができ、生産現場や商品を見学する。それにより認知度向上や購入のきっかけとする。

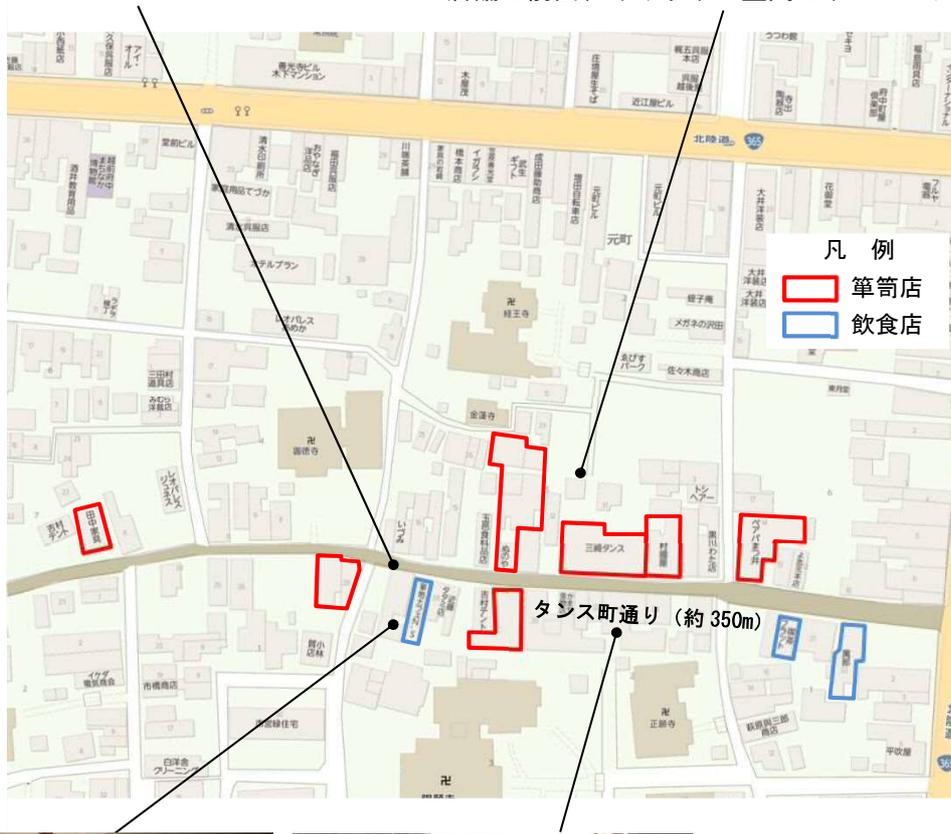
■タンス町界隈のまちづくりイメージ例



街なみ景観の魅力向上



店舗の前面、ギャラリー空間のリニューアル



筆筒カフェ等での情報発信により通り以外の筆筒店へ誘導する



越前筆筒祭りを開催し、関心のある層を呼び込む



現在のタンス町通り

振興策2 若手経営者による越前筆笥の意匠・技術を応用した新商品開発・販路開拓の推進 (越前筆笥のブランド形成、産地振興、人材育成)

事業目的	作れば売れる時代が終わり、販売に力点を置いた製作へと転換していく必要がある。産地の次の時代を担う若手が研究会を立ち上げ、越前筆笥（指物）の意匠・技術を応用した新商品開発、販路開拓に取り組む。		
事業主体	越前指物組合青年部 ^注 （実施）	越前市（事業支援）	注：設置予定
事業時期	H27～H31		

■事業例

(1) 新商品開発・販路研究会の実施

- ・若手の担い手为中心となり「新商品開発研究会」を立ち上げる。コーディネーターを置き、年間を通じた研究会を開催することにより、商品開発・販路開拓の方法を学ぶ。
- ・全国で伝統的産業品とデザイナーのコラボレーションが行われているが、単にデザイナーが新商品を開発する方法では成果が生まれていないのが現状である。作り手又は経営者が自らの企画で新商品を開発し、そのデザインをデザイナーに依頼するなど、経営リスクを意識しながら、売れる商品づくりを進めることが重要である。
- ・新商品は、全国の伝統的工芸品が集まるアンテナショップやギフトショー等でテストマーケティングを行うことにより販路を探り、産地の販路開拓につなげる。
- ・新商品開発を議論の軸とし、越前筆笥（指物）のブランド形成、産地振興の在り方をじっくり検討し、産地の経営者・職人のネットワークを形成し、産地の行動力を高めることが狙いである。

※コーディネーター費用、デザイナーへの依頼費用の一部を市が支援する。



製造元：仙台筆笥伝承館 門間筆笥店
ブランド名：monmaya+（モンマヤプラス）

老舗仙台筆笥製造元(株)門間筆笥店の新たなプロジェクト「monmaya+」。アーティストとCI（Corporate Identity: 企業文化の構築や統一等）に取り組み、その一環として商品開発が行われた。

左はロンドン在住の家具デザイナーと制作したコンソール。2013年グッドデザイン賞受賞。

右は柿洪で仕上げた「Upright」シリーズ



製造元：仙台筆笥伝承館 門間筆笥店
ブランド名：monmaya+（モンマヤプラス）

振興策3 産地としての継続性の強化

事業目的	越前箆筥（指物）の産地としての継続性を強化するため、技術の継承、原材料の確保、事務局機能の強化を図る。	
事業主体	越前指物組合（実施）	越前市（事業支援）
事業時期	H27～H31	

■事業例

（1）技術の継承

- ・越前箆筥（指物）の技術全般において、映像等で記録を行うとともにサンプルを残すなど後世に技術を継承する資料を整備する。
- ・特に、金物職人が途絶える危険性が高いため、映像等で製造工程を記録する等の取組を早急に行う。
- ・熟練技術者の高齢化が進んでいることから、若手技術者を指導する機会を増やすことにより技術の継承を図る。

（2）原材料の確保につながる森づくり

- ・林業の衰退等により良質の材料の入手が困難になりつつある。産地として森林を保全しながら、原材料の確保に力を入れていく必要がある。
- ・このような自然保護の取組は、越前箆筥（指物）のブランド力向上にもつながることから、長期的な視点で実施する。
- ・単に組合で植林をするのではなく、自然保護に意識の高い市民と連携するなど、活動を広げながら森づくりを推進する。

（3）事務局機能の強化

- ・継続的に産地の振興を進めるためには、越前指物組合の事務局機能の強化が必要であり、専従スタッフの確保を目指す。しかし、専従スタッフを確保するためには、人件費を賄う収入が必要となる。
- ・新庁舎建設の一部を指物組合で共同受注する等、様々な機会を活かしながら、スタッフの確保を進める。

3-3 越前筆筒（指物）の振興策の整理（事業主体・スケジュール）

振興策	実施主体	事業年度	事業例
1. タンス町通りを越前筆筒（指物）の展示場として歴史・文化を活かしたまちづくりを進める	実施：越前指物組合 協力：四町まちづくり協議会 支援：越前市	H29～H31	(1) タンス町界隈のまちづくりの推進
			(2) 越前筆筒祭り（仮称）の開催
			(3) 市内の各イベントとの連携強化
			(4) 筆筒見学モニターツアーの実施
2. 若手経営者による越前筆筒（指物）の意匠・技術を応じた新商品開発・販路開拓の推進	実施：越前指物組合 青年部 支援：越前市	H27～H31	(1) 新商品開発・販路研究会の実施
3. 産地としての継続性の強化	実施：越前指物組合 支援：越前市	H27～H31	(1) 技術の継承
			(2) 原材料の確保につながる森づくり
			(3) 事務局機能の強化

4. 伝統産業（全体）の共有・連携による振興策と事業の例示

ここでは、三産地（越前和紙、越前打刃物、越前箆笥（指物））に加え、織物、越前漆器、越前瓦を含む伝統産業全体の共有・連携による振興策と事業の例示を行う。

4-1 伝統産業（全体）の共有・連携により目指す姿

目指す姿

伝統産業の継承及び振興を推進するとともに、産地間連携を高め、交流人口を呼び込む。また、市民が身近に工芸の産地があることを実感し、生活に取り入れることにより、豊かなライフスタイルを育む。

■振興策の体系

重点期間 H27～H31

クラフトマン（職人）が
生き生き仕事するまち

振興策 1 伝統産業の技術継承支援

振興策 2 伝統産業の連携による産業振興の推進

クラフトツーリスト（旅
行者）が滞在するまち

振興策 3 クラフトツーリズムの強化

振興策 4 無料Wi-Fiエリアの拡充 多言語対応案内の整備

振興策 5 各産地をつなぐ魅力的な拠点づくり

振興策 6 各産地をつなぐイベントの開催

振興策 7 伝統工芸と歴史資源の組合せ

クラフトシチズン（市民）
が豊かに暮らすまち

振興策 8 学校教育における工芸の取り入れ

振興策 9 市民の日常生活における工芸の浸透

振興策 10 庁舎建設における伝統工芸の活用

4-2 伝統産業（全体）の共有・連携による振興策

振興策1 伝統産業の技術継承支援

事業目的 越前市では伝統産業を守り育てていくために、後継者育成対策として若手後継者に対する支援を行うとともに、若手後継者の独立を促すことを目的に新規開業支援として工場の賃借料や創業経費の一部を支援しており、一定の成果が現れている。

今後ますます、伝統産業の技術継承が重要になることから、越前市における7つの伝統産業を対象を拡大し、伝統産業の技術の記録化や新たな研修・育成事業などを支援する。

事業主体 各産地組合等（事業の実施） 越前市（事業支援）

事業時期 H27～H31

■事業例

（1）技術研修会の開催支援

- ・ 伝統産業の組合等が行う若手後継者向けの技術研修会の開催を促進することにより、各産地における技術の継承を円滑にする。
- ・ 各産地の組合等と市が協働し、研修会の開催を計画するとともに、実施にあたっては一定の支援策を講じる。



京都市産業技術研究所では伝統産業技術後継者育成事業として産業別の研修を定期的実施している

（2）大学生インターンの受け入れ

- ・ 国内の美術系大学、工芸系大学とタイアップし、伝統産業のインターン受け入れを促進する。
- ・ インターンの受け入れにより、後継者の確保を進め、技術継承につなげる。

（3）伝統技術の記録・保存の促進

- ・ 伝統産業技術の記録映像の製作や、過去に製作された文化財等を複製することにより伝統技術のアーカイブ化を進める。
- ・ 各産地の組合等が、映像制作、複製事業等を行う際に支援を行う。



石川県九谷焼技術研修所の風景

振興策2 伝統産業の連携による産業振興の推進

事業目的 越前市には、主な産地が越前市の伝統的工芸品である越前和紙、越前打刃物、越前箆笥（指物）に加え、伝統産業である織物、越前漆器、越前瓦が存在している。また、丹南地域、福井県、北陸圏においても伝統産業が集積している。各産業の振興策に加え、伝統産業がそれぞれのケースにあわせて連携することにより、新たな魅力や付加価値を高めることが可能である。

そこで、各産地や企業が他産地との連携策を実施する際に、市が支援策を講じることにより、連携促進を図る。

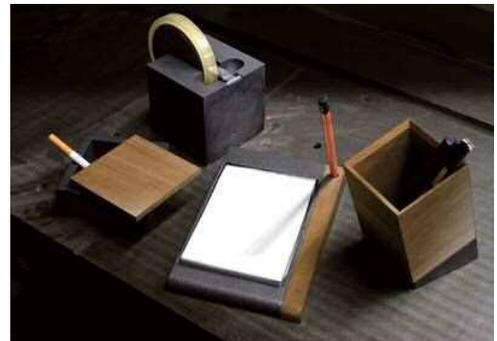
事業主体 各産地組合（事業実施） 企業〔単独・連携〕（事業実施） 越前市（事業支援）

事業時期 H27～H31

■事業例

（１）産地間コラボ事業の推進

- ・越前市の伝統産業が連携し、新商品開発やブランド展開を行い、差別化や付加価値向上を図る取組に対し、市が支援を行う。
- ・市内の複数の伝統産業と市外の産地のコラボ事業に対しても支援策を検討し、伝統産業間の連携、伝統産業とそれ以外の産業の連携の促進を図る。



越前漆器と高岡銅器のコラボによる商品

（２）拠点施設整備に伴う連携の促進

- ・紙の文化博物館の改修、打刃物拠点施設の整備等、拠点施設整備において伝統産業の連携を促進する。
- ・例えば、池ノ上工業団地において整備を構想している打刃物拠点施設の屋根瓦に越前瓦、鬼瓦を使用し産地のPRを行うことや、ミュージアムショップにおいてコラボ商品を販売する等、連携事業の促進を図る。



瓦が印象的な富山県水墨画美術館

（３）国・県の支援と連携した販路開拓・商品開発

- ・福井県の支援事業である「越前ものづくりの里プロジェクト」において「旅館と連携した伝統的工芸品の販売」が位置づけられている。それと連携する形で、旅館の少ない越前市においては「飲食店との連携に対する助成」を加える等、国・県の支援事業と連携した販路開拓事業、新商品開発事業を推進する。



輪島市の漆器使用拡大補助金により輪島塗を揃えた飲食店の例

振興策3 クラフトツーリズムの強化

事業目的 新幹線開業を見据え、各産地でクラフトツーリズムのプログラムを実践し、魅力的なプログラム開発を推進する。また、南越駅（仮称）が、伝統産業の発信拠点となるよう整備を進める。それにより交流人口を活用した産業の活性化を目指す。

事業主体 越前市（事業の実施） 各産地の組合、旅行代理店等（連携）

事業時期 H27～H31

■事業例

（1）越前クラフトツーリズムプログラムの開発

- ・越前市の伝統産業の生産現場を解説付きで見学できる「越前クラフトツーリズム（仮称）」のプログラムを開発し実験的に実施する。
- ・実験実施の中で、作り手からの要望、参加者の満足度などを確認し、伝統工芸が集積する越前市ならではのプログラム開発につなげる。

※次頁に和紙をテーマとするクラフトツーリズムを例示する。



金沢市が進めるクラフト
ツーリズム実施の様子

（2）越前クラフトツーリズムの情報発信の一元化

- ・新しく開発する越前クラフトツーリズムのプログラムや、各産地で実施している見学会、制作体験等の情報を一元化し、Web サイトで発信する。
- ・将来的に、参加の申し込みや料金収受などが可能なサイトに発展させることにより、クラフトツーリズムの強化につなげる。



高岡クラフトツーリズム
のWEBサイト

（3）旅行商品化の推進

- ・大手旅行代理店や地元の旅行会社へ働きかけ、越前市の伝統工芸を組み込んだ旅行商品の造成を促進する。それにより越前市の伝統工芸に親しんで頂くための入門編として多くの旅行者に参加してもらうことを目指す。

（4）越前クラフトツーリズム窓口機能の強化

- ・越前クラフトツーリズムのプログラム開発や、情報発信を行うとともに、地元の観光事業者や全国の観光エージェントと連携し、旅行商品化を進める窓口を設置し、クラフトツーリズムの推進を図る。

（5）南越駅（仮称）における伝統産業の情報発信の起点としての位置付け

- ・平成34年度に予定されている北陸新幹線敦賀延伸の効果を最大限高めるため、南越駅（仮称）に伝統工芸のギャラリーやショップ、クラフトツーリズムの受付窓口等を設置するとともに、各産地にアクセスできるための二次交通を整備する等、伝統産業の情報発信の起点として位置付ける。

【紙の文化博物館を起点とする産業観光のイメージ】

観光バスツアーで訪れる旅行者

観光バスツアーで訪れる旅行者は、滞在時間が短く手軽な見学や体験を望む傾向がある。パピルス館、卯立の工芸館を中心に、手漉き和紙の見学や体験を提供する。



和紙・工芸に興味がある コアなファン・リピーター

和紙・工芸に興味があるコアなファンには、手漉き和紙、機械抄き和紙の生産現場の見学を中心に、和紙文化をゆっくと味わって頂く。紙の文化博物館を起点に、見学可能な工場・工房に連絡を取り、旅行者が現場を見学できる仕組みを整備する。



クラフトツーリズムプログラムの 実施（コアなファンの形成）

和紙に興味があるコアなファンを形成するために、和紙の解説、生産現場の見学、岡太神社の特別拝観等を組み合わせたプログラム（アテンド有）をつくり、定期的を開催する。



外国人旅行者への対応

外国人旅行者は、滞在型のスタイルが多い。外国語で和紙の産地をガイドできる人を増やすとともに、スマートフォン用の多言語アプリを開発し、産地を見学できる仕組みを整える。

振興策4 無料Wi-Fi エリアの拡充 多言語対応案内の整備

事業目的 旅行者への情報提供を円滑にするとともに、増大する外国人旅行者に対応するため、無料 Wi-Fi エリアの拡充を進める。また、特に観光拠点においては多言語対応の情報提供を整備する。

事業主体 越前市（事業実施） 通信会社、民間事業者（協力）

事業時期 H27～H31

■事業例

（1）無料Wi-Fi エリアの拡充

- ・ 鉄道駅、市公共施設、各伝統工芸の拠点施設等から無料 Wi-Fi エリアの整備を進め、日本人の来訪者をはじめ、外国人旅行者、地域住民が利用できる無料エリアの拡充を進める。
- ・ 商店街や特徴的なエリアは、商業者等と連携し、面的な利用が可能なエリア整備を進める。

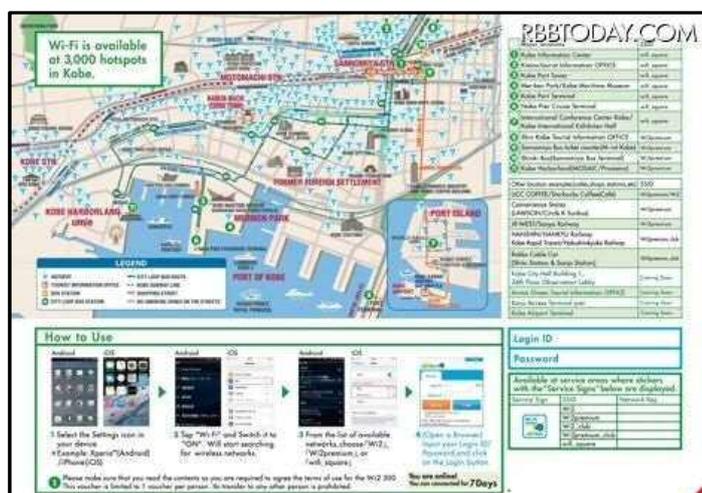
（2）多言語対応案内の整備

- ・ 伝統工芸の拠点施設では、Wi-Fi を使って外国人旅行者が多言語対応の案内を見ることができるようコンテンツを整備する。加えて、伝統工芸の産地や中心市街地、観光スポットにおいてコンテンツの整備を進め、外国人の受け入れ態勢を強化する。

【多言語対応案内の事例】



広島クエスト
広島県が提供している多言語対応スマートフォン用アプリケーション。5か国語に対応している。広島市では外国人向けのフリーWi-Fiの実験も実施されている



KOBE Free Wi-Fi
神戸市を訪れた外国人観光客に、公衆無線 LAN を1週間無料で提供するサービス。外国人観光客は観光案内窓口等でパスワードを記載したゲストカードを受け取り利用する。データを使った観光動線、滞在時間の分析も行う

振興策5 各産地をつなぐ魅力的な拠点づくり

事業目的	越前市の伝統産業の産地をつなぎ、周遊できる地域を形成するため、伝統工芸に係る魅力的な拠点づくりを進める。	
事業主体	民間事業者又は越前市（事業実施）	越前市（事業支援）
事業時期	H27～H31	

■事業例

（１）旧家を活用した生活文化発信拠点の整備

- ・福井県では、伝統的民家を保全・活用する地区を「伝統的民家群保存活用推進地区」に指定しており、本市では四町地区及び五箇地区が指定を受けている。
- ・例えば五箇地区の旧家等を活用し、越前市の伝統産業が生活に活用されている空間展示を行うことにより、各産地を周遊する人の流れを促進する。
- ・生活文化の発信拠点は、単なる展示では魅力が弱いことから、伝統工芸作家のギャラリーとしての活用や、工芸品に囲まれた空間で食事ができるレストランにする等、市民や観光客が立ち寄りたくなる拠点を目指す。



高岡クラフト市場街の取組：町家をギャラリーとして利用する取組や、食と工芸の組合せにより、伝統工芸の魅力を総合的に発信している

（２）クラフトショップの開店促進

- ・越前市においてクラフトを取り扱う店舗の開店に対し、一定の補助を行う制度を設けることにより、市内全域においてクラフトショップの増加を促す。
- ・また、クラフト作家自身が工房を兼ねたギャラリーショップを開店する際の支援も行う。
- ・各産地間の区間にクラフトショップが増えることにより、産地間同士がつながり、面的に工芸を楽しむことができる地域を創出する。



工房を兼ねたギャラリーショップ（瀬戸市）

振興策6 各産地をつなぐイベントの実施

事業目的	越前市における伝統産業の産地が一堂に会し、伝統工芸の魅力を伝えるイベントを実施することにより、交流人口への発信力を高める。		
事業主体	イベント実施団体（事業実施）	越前市（事業支援）	
事業時期	H27～H31		

■事業例

（1）越前クラフトマーケットの定期開催

- ・越前市の中心部である蔵の辻等で、定期的に「越前クラフトマーケット」を開催する。
- ・市民や観光客が訪れるイベントに育てることにより、越前市及び周辺において工芸に携わる人の育成につながるとともに、産地間の人的なネットワークを強化する。
- ・また、市民が工芸を身近に感じる機会になるとともに、交流人口の拡大効果も図る。



蔵の辻 壺の市



のとじま手まつり（クラフトマーケット）

振興策7 伝統工芸と歴史資源の組合せ

事業目的	伝統工芸や歴史資源が集積するイースト地区を越前和紙ゾーン、歴史ゾーンと位置づけ、観光拠点の整備を進め、周遊できる観光地域を形成する。
事業主体	整備：越前市
事業時期	H27～H31

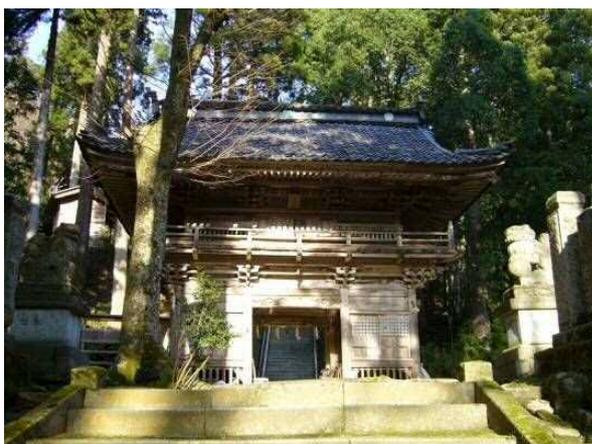
■事業例

(1) イースト地区をつなぐ魅力的な拠点づくり

- ・継体大王や万葉集ゆかりの地をテーマとしてイースト地区を一体的につなぐことで、観光客が周遊できる地域を形成し、伝統工芸と歴史資源を観光に結び付けた魅力的な拠点づくりを促進する。
 - 継体大王伝説や万葉集を基に、神社仏閣、伝統芸能、奇祭等の連携
 - 紙の文化博物館の改修＝和紙文化の発信拠点（再掲）
 - タケフナイフビレッジの独立工房ゾーン整備（再掲）
 - 旧家を活用した生活文化発信拠点の整備（再掲）
 - クラフトショップの開店促進（再掲）
 - ゲストハウス・ドミトリー等の宿泊施設開業促進
 - グリーンツーリズムとの連携強化

(2) 越前の里・味真野苑の魅力強化

- ・継体大王像の周辺を整備し、味真野神社との回遊性を高め、更に万葉集ゆかりの地として、越前の里・味真野苑、万葉菊花園の観光拠点機能を強化する。



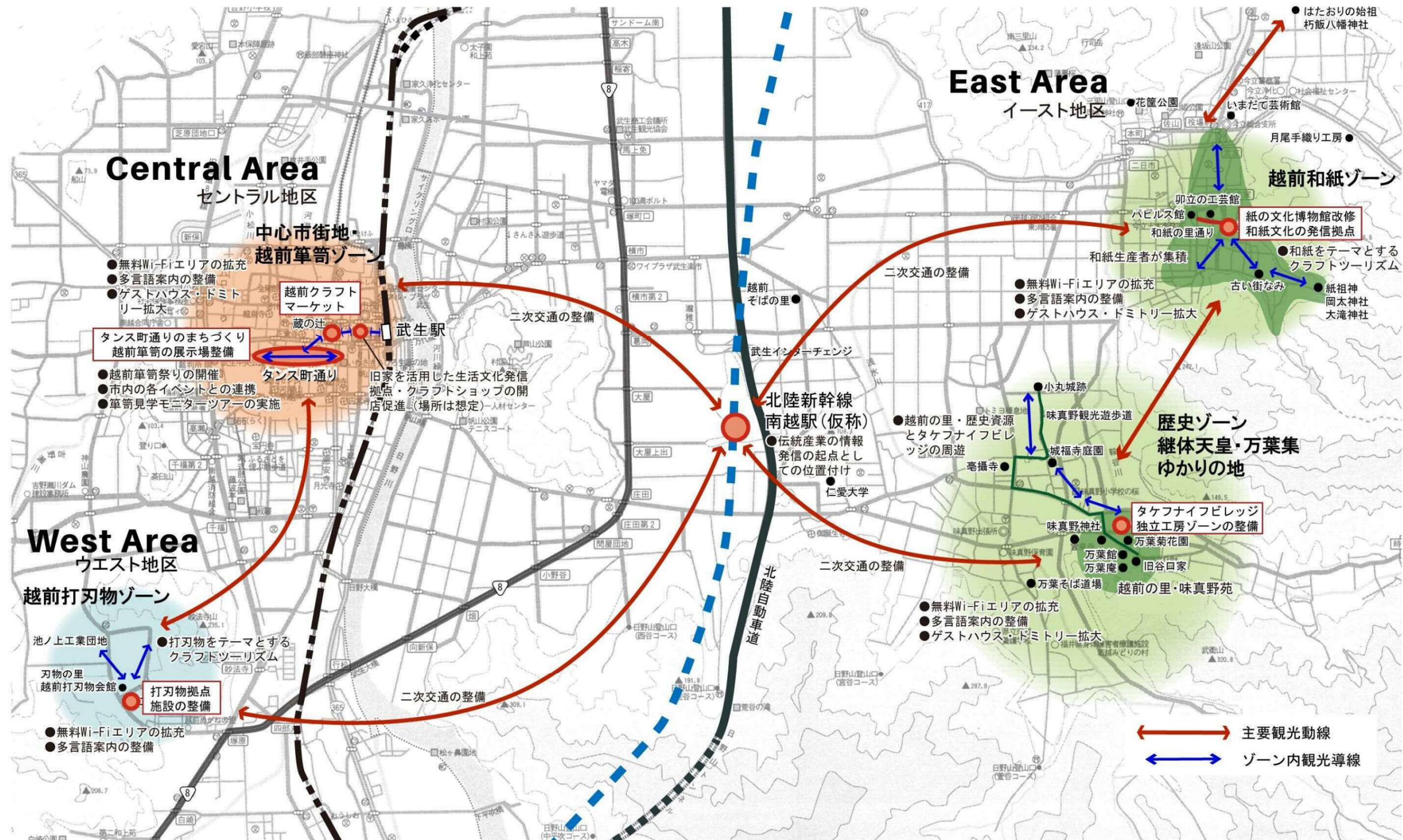
継体大王の伝説も残る五皇神社では、奇祭「ほうき祭」が行われる



継体大王の花がたみ像がある味真野苑

【例示】伝統工芸を中心とする越前市の観光ゾーン・観光動線

- ・北陸新幹線敦賀開業を見据え、南越駅（仮称）における伝統産業の拠点機能強化、南越駅からの二次交通整備や観光動線の魅力向上が望まれる。
- ・イースト地区の核は、越前和紙ゾーンと歴史ゾーンである。越前和紙ゾーンでは、和紙の里を中心に生産現場の見学プログラムを進める。歴史ゾーンは継体天皇、万葉集をはじめとする歴史資源が集積しており、タケフナイフビレッジも立地していることから、伝統工芸に関心のある層が和紙の里とナイフビレッジを行き来する中で、歴史ゾーンの観光コンテンツにアクセスできるよう連携を強化する。
- ・セントラル地区は、タンス町界隈のまちづくりを中心に、クラフトマーケットや箆笄祭りを開催するなど中心市街地としての場の魅力を高める。
- ・ウエスト地区は、打刃物の拠点を中心に生産現場の見学も可能なクラフトツーリズムを進める。
- ・無料 Wi-Fi や多言語案内を整備するとともに、各地区を結ぶ要所にクラフトショップ等の立地を推進することにより、各地区の連携を強め滞在型の観光ゾーンを形成する。



振興策8 学校教育における工芸の取り入れ

事業目的	市民生活に伝統工芸が浸透するためには、子どもの頃から工芸に触れる機会が重要である。越前市内の小学校、中学校に伝統工芸の授業を組み込むことにより、越前の工芸の魅力を学び、生活に取り入れる市民を育む。	
事業主体	越前市（事業実施）	各産地の組合（事業協力）
事業時期	H27～H31	

■事業例

（１）伝統工芸授業の実施

- ・越前和紙を用いた版画や絵画制作、越前打刃物を使った調理実習、指物職人による木工技術授業等、小学校～中学校を通じて伝統工芸の産地であることを活かした教育を推進する。
- ・越前市に対する誇りを醸成するとともに、伝統工芸を生活の中で使う豊かなライフスタイルの形成を推進する。



小中全校で伝統工芸の授業を行う高岡市ものづくり・デザイン科

（２）小学生に和紙、打刃物、指物を贈呈

- ・越前市内の小学生一人ひとりに和紙、打刃物、指物を贈呈することにより、伝統工芸を身近に感じ、好きになる子供を育む。

※地域内における工芸の需要拡大策としても機能する。

振興策9 市民の日常生活における工芸の浸透

事業目的	伝統工芸が集積している越前市においても、一般市民にその魅力が理解されず、日常生活においても使われていない。伝統工芸を身近に感じてもらうための取組を進めることにより、市民生活への浸透を図る。	
事業主体	越前市（事業実施）	各産地の組合（事業協力）
事業時期	H27～H31	

■事業例

（１）クラフトを活かした生活空間展示（イベント）の拡大

- ・伝統工芸が日常生活の中で息づいている様子を、市民、旅行者が見学することができる「生活空間展示」のイベントを定期的で開催する。
- ・具体的には、タンス町通り、五箇地区、味真野地区等歴史的なエリアを活用し、一定期間町家（住宅）の一部を開放し、工芸の生活空間展示や、工芸の器で楽しむ飲食の提供、工芸を活用したインテリア・しつらえ等を展示するイベントを開催する。

(2) 伝統工芸プレミアム商品券の販売

- ・越前市民に、和紙、打刃物、箆笥をお得に購入してもらう機会として、プレミアム商品券の販売を行う。
- ・プレミアム商品券（例 1,000 円の購入で 1,100 円として使用）の差額は行政が支援する。
- ・価格が高いことから敬遠していた市民が、伝統工芸品を購入する機会を創出する。

(3) 市内で開催されるイベントにおける伝統工芸ブースの出展促進

- ・越前市内で開催されるイベントにおいて、伝統工芸の紹介、体験ブース等の出展が望まれている。
- ・伝統工芸を市民に知ってもらう機会と捉え、出展費用の助成制度を設ける等、出展の促進を図る。

振興策10 庁舎等建設における伝統工芸の活用

事業目的 市民の利用機会が多い市役所の新庁舎建設において、越前市の伝統産業の工芸意匠、技術を活かした内装を取り入れることにより、産地の需要を創造するとともに、市民が工芸に親しむ機会の拡大を図る。

事業主体 越前市（事業実施） 各産地の組合（事業協力）

事業時期 H27～H31

■事業例

(1) 庁舎等建設における伝統工芸の活用

- ・越前市では本庁舎及び今立総合支所の建て替えが予定されている。
- ・執務室、会議室、待合空間、カフェ等の内装に越前和紙、越前指物を活用するとともに、打刃物をインテリアや食器等に用いる等、庁舎全体が伝統工芸のショールームとして機能する取組を進める。



旧石川県庁のインテリアに用いられた漆器パネル



越の国文学館に用いられている和紙のパーティション 影絵の投影ができる

4-3 伝統産業（全体）の共有・連携による振興策の整理（事業主体・スケジュール）

振興策	実施主体	事業年度	事業例
1. 伝統産業の技術継承支援	実施：各産地組合 支援：越前市	H27～H31	(1) 技術研修会の開催支援
			(2) 大学生インターンの受け入れ
			(3) 伝統技術の記録・保存の促進
2. 伝統産業の連携による産業振興の推進	実施：各産地組合 支援：越前市	H27～H31	(1) 産地間コラボ事業の推進
			(2) 拠点施設整備に伴う連携の促進
3. クラフトツーリズムの強化	実施：越前市 連携：各産地の組合、 旅行代理店等	H27～H31	(1) 越前クラフトツーリズムプログラムの開発
			(2) 越前クラフトツーリズムの情報発信の一元化
			(3) 旅行商品化の推進
			(4) 越前クラフトツーリズム窓口機能の強化
			(5) 南越駅（仮称）における伝統産業の拠点機能強化
4. 無料Wi-Fiエリアの拡充 多言語対応案内の整備	実施：越前市 協力：通信会社、民間事業者	H27～H31	(1) 無料Wi-Fiエリアの拡充
			(2) 多言語対応案内の整備
5. 各産地をつなぐ魅力的な拠点づくり	実施：民間事業者 越前市 支援：越前市	H27～H31	(1) 旧家を活用した生活文化発信拠点の整備
			(2) クラフトショップの開店促進
6. 各産地をつなぐイベントの実施	実施：イベント実施団体 支援：越前市	H27～H31	(1) 越前クラフトマーケットの定期開催
7. 伝統工芸と歴史資源の組合せ	整備：越前市	H27～H31	(1) イースト地区をつなぐ魅力的な拠点づくり
			(2) 越前の里・味真野苑の魅力強化
8. 学校教育における工芸の取り入れ	実施：越前市 支援：各産地の組合	H27～H31	(1) 伝統工芸授業の実施
			(2) 小学生に和紙、打刃物、指物を贈呈
9. 市民の日常生活における工芸の浸透	実施：越前市 支援：各産地の組合	H27～H31	(1) クラフトを活かした生活空間展示（イベント）の拡大
			(2) 伝統工芸プレミアム商品券の販売
			(3) 市内で開催されるイベントにおける伝統工芸ブースの出展促進
10. 庁舎等建設における伝統工芸の活用	実施：越前市 支援：各産地の組合	H27～H31	(1) 庁舎等建設における伝統工芸の活用

第5章 工芸の里構想の実現に向けて

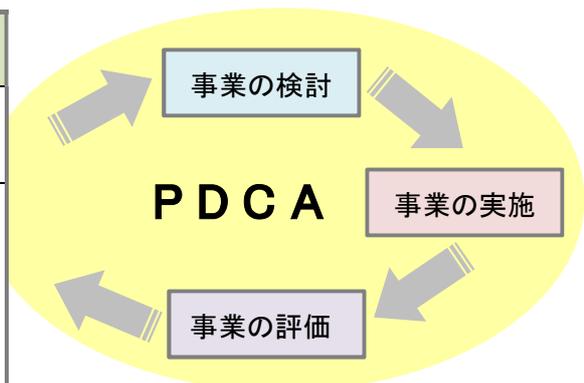
今後「越前市工芸の里構想」に基づき、伝統工芸産業の振興及び交流人口の拡大による総合的な活性化策を推進する。構想の推進にあたっては、経済情勢・産業構造の変化、人口減少などの社会的要因とともに、原材料や燃料費の変動、競合産地の動向など産地特有の要因に基づき実施事業を進めるとともに、進捗管理、効果検証、対策の検討を行うことにより、PDCAサイクルをまわしながら、進めていくことが求められる。

1. 推進体制

(1) 工芸の里構想推進協議会

- 越前市工芸の里構想の実施事業の検討、実施、評価を行うことにより、適切な進行管理を進めるため、次のような推進体制を組織する。

工芸の里構想推進協議会(仮称)	
目的	事業の検討、実施、評価を行うことにより、適切な進行管理を進める
委員	工芸の里構想策定会議委員 産地の関係者 外部の専門家 行政機関 等により構成



(2) プロジェクト毎の進行管理

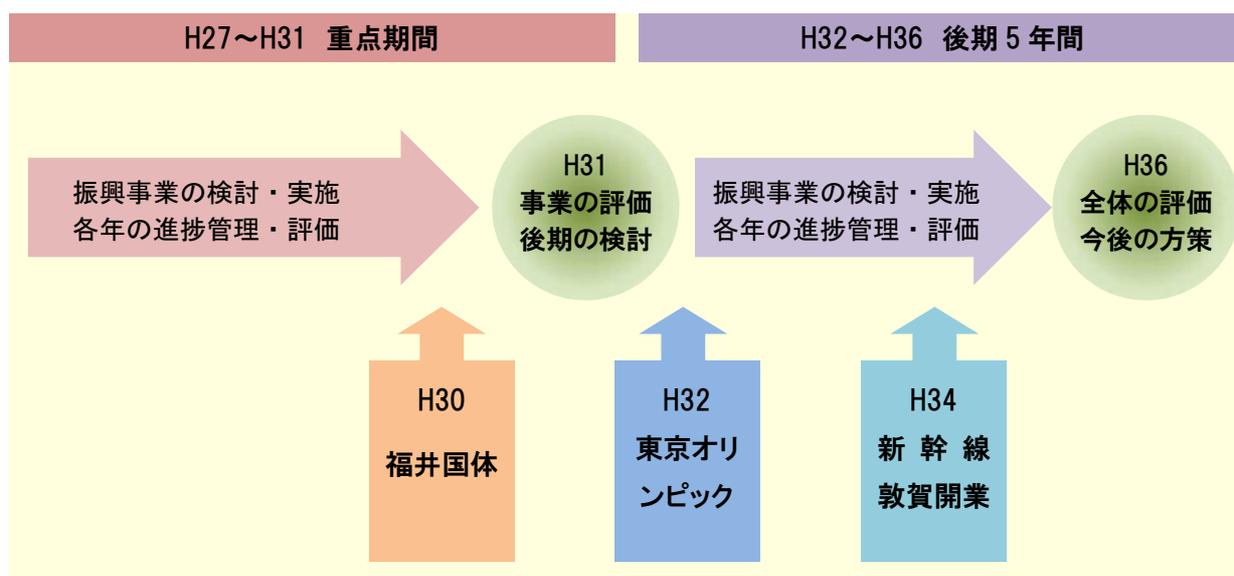
- 「紙の文化博物館の改修」や「打刃物拠点施設の整備」など重点的な事業に関しては、プロジェクト毎の進行管理を行う。

(3) 構想推進にあたっての留意点

- 構想を推進するにあたっては、市民への周知、事業への市民参加を十分図る。
- それにより、まちづくりと連動する事業、民間主体の事業をより効果的に推進する。
- また、市民の越前市に対する誇りや愛着を高めることにつなげ、伝統工芸を日常生活に取り入れるライフスタイルの定着を図る。

2. 推進期間

- ・平成 27 年度から 31 年度までの 5 年間は重点期間と位置づけ、振興事業を展開する。
- ・平成 30 年度の福井国体、平成 32 年度の東京オリンピック、平成 34 年度の北陸新幹線敦賀開業等、地域社会に対してインパクトの大きい事業が予定されていることから、それらの波及効果を最大限発揮できるように、タイミングを計りながら事業を実施する。
- ・また、平成 31 年度には、前期 5 年間の事業効果を確認するとともに、後期 5 年間の実施内容に対し再検討を行う。



参 考

1. 越前市工芸の里構想策定会議 委員名簿

(順不同、敬称略)

No.	職 (職歴)	氏 名	住所
1	武生商工会議所副会頭 武生特殊鋼材(株) 代表取締役会長	(座長) 河野 通亜	越前市
2	福井県産業労働部プロジェクトマネージャー 本田技術研究所(株) 元常務取締役	保坂 武文	東京都
3	福井県立大学 地域経済研究所 講師	(副座長) 江川 誠一	坂井市
4	デザイナー (株)プレーン代表取締役 グッドデザイン賞審査委員	渡辺 弘明	東京都
5	インテリアコーディネーター ライフコーディネーターショップ ゆー・代表 県都デザイン懇話会委員	竹内 幸子	福井市
6	(株)JTB 中部国内商品事業部 仕入販売部 金沢デスク るるぶトラベルプロデューサー (福井担当)	森 小春	金沢市
7	工芸品コーディネーター 市新事業チャレンジ支援事業審査員	杉原 敦子	越前市
8	越前和紙 美術作家	青木 里菜	越前市
9	市民公募委員 (丹南FMパーソナリティー)	近藤 和佳	越前市
10	市民公募委員 (自営業)	三崎 俊幸	越前市

2. 越前市工芸の里構想及びふるさと創造プロジェクト検討経過

日時	概要	内容
平成 26 年 4 月 22 日(木)	第 1 回策定委員会・現地視察	(1)産地視察 (2)委員の紹介
平成 26 年 5 月 19 日(月) 14:30～16:00	第 1 回打合せ	(1)契約内容、事業スケジュールの確認 (2)第 2 回工芸の里構想策定委員会の進め方
平成 26 年 5 月 29 日(木) 13:30～16:00	第 2 回策定委員会	(1)コンサル事業者紹介 (2)工芸の里構想 骨子(ドラフト)の検討 (3)策定スケジュールの確認
平成 26 年 6 月 5 日(木) 10:00～12:30	第 2 回打合せ	(1)第 2 回策定委員会の課題整理及び今後の方向性の検討 (2)取組内容・データの確認
平成 26 年 6 月 13 日(金) 13:30～15:30	ヒアリング (越前和紙企業)	越前和紙生産企業に、企業の動向や取組状況についてヒアリング調査を実施
平成 26 年 6 月 16 日(月) 10:00～12:00	ヒアリング (越前打刃物組合)	越前打刃物産地協同組合連合会に、産地の動向や取組状況についてヒアリング調査を実施
平成 26 年 6 月 16 日(月) 13:30～16:00	ヒアリング (越前箆笥組合)	越前指物協同組合に、産地の動向や取組状況についてヒアリング調査を実施
平成 26 年 6 月 17 日(火) 13:30～15:30	ヒアリング (タケフナイフビレッジ)	タケフナイフビレッジに、動向や取組状況についてヒアリング調査を実施
平成 26 年 6 月 17 日(火) 19:00～21:00	ヒアリング (越前和紙組合)	福井県和紙工業協同組合に、産地の動向や取組状況についてヒアリング調査を実施
平成 26 年 7 月 1 日(火) 10:00～12:00	第 3 回打合せ	(1)工芸の里構想骨子全体についての検討 (2)三産地振興の方向性の検討
平成 26 年 7 月 1 日(火) 13:15～14:30	ヒアリング (越前和紙の里三館)	越前和紙の里三館館長に、産地の課題や取組状況についてヒアリング調査を実施

日時	概要	内容
平成 26 年 7 月 8 日(火) 10:00～12:00	ヒアリング (江川委員)	工芸の里構想策定委員に対し、三産地の振興策についてヒアリング調査を実施
平成 26 年 7 月 9 日(水) 10:00～11:00	ヒアリング (保坂委員)	工芸の里構想策定委員に対し、三産地の振興策についてヒアリング調査を実施
平成 26 年 7 月 16 日(水) 14:00～16:30	第 3 回策定委員会	(1)工芸の里構想 骨子(案)の検討
平成 26 年 7 月 31 日(木) 15:00～17:00	第 4 回打合せ	(1)第 3 回策定委員会の課題整理及び今後の方向性の確認 (2)ふるさと創造プロジェクトの進め方の検討
平成 26 年 8 月 7 日(木) 15:00～17:00	第 1 回セントラル地区 施設整備検討会	(1)工芸の里構想 骨子(案)について報告 (2)タンス町通り整備に関する検討
平成 26 年 8 月 19 日(火) 18:30～20:30	第 1 回イースト地区(ふるさと創造プロジェクト) 推進委員会	(1)イースト地区(ふるさと創造プロジェクト)推進委員会についての説明 (2)工芸の里構想骨子(案)(越前和紙産業振興策)の検討
平成 26 年 8 月 25 日(月) 15:00～17:30	第 1 回ウエスト地区施設整備検討会	(1)工芸の里構想骨子(案)についての報告 (2)池ノ上工業団地及びタケフナイフビレッジの施設整備の検討
平成 26 年 8 月 25 日(月) 19:00～22:30	第 1 回イースト地区(ふるさと創造プロジェクト) 施設整備検討会	(1)工芸の里構想骨子(案)についての報告 (2)紙の文化博物館施設整備に関する検討
平成 26 年 9 月 3 日(水) 14:00～17:00	ヒアリング (坂田守正氏)	デザイナー坂田守正氏に、越前指物協同組合振興策に関するヒアリング調査を実施
平成 26 年 9 月 3 日(水) 17:00～18:00	第 5 回打合せ	(1)次回委員会の進め方の検討
平成 26 年 9 月 18 日(木) 19:00～21:00	第 2 回イースト地区(ふるさと創造プロジェクト) 施設整備検討会	(1)紙の文化博物館施設整備に関する検討
平成 26 年 9 月 24 日(水) 14:00～16:30	第 4 回策定委員会及び三産地施設整備検討会合同会議	(1)工芸の里構想 骨子(案)の検討 (2)中間報告とりまとめについての周知

日時	概要	内容
平成 26 年 10 月 6 日(月) 10:00～12:00	第 6 回打合せ	(1)中間報告とりまとめについて
平成 26 年 10 月 10 日(金) 19:00～20:30	第 3 回イースト地区(ふるさと創造プロジェクト)施設整備検討会	(1)紙の文化博物館施設整備に関する検討
平成 26 年 10 月 21 日(火)	越前市へ中間報告	工芸の里構想及び越前市ふるさと創造プロジェクトに関する中間報告を実施
平成 26 年 11 月 4 日(火) 13:30～15:20	第 7 回打合せ	(1)議会説明及び次回委員会の進め方の確認 (2)紙の文化博物館改修工事についての検討
平成 26 年 11 月 6 日(木) 14:00～17:00	第 2 回セントラル地区施設整備検討会	(1)工芸の里構想 骨子(案)について報告 (2)タンス町整備に関する検討
平成 26 年 11 月 6 日(木) 18:15～19:15	第 2 回ウエスト地区施設整備検討会	(1)池ノ上工業団地及びタケフナイフビレッジの施設整備の検討
平成 26 年 11 月 13 日(木) 14:00～16:30	第 5 回策定委員会及び三産地施設整備検討会合同会議	(1)中間報告及び中間報告後の整理 (2)パブリックコメントについての周知
12 月 15 日～1 月 15 日	パブリックコメント	12 月 15 日時点での「越前市工芸の里構想(案)」を公開し市民から意見を募集
平成 26 年 12 月 16 日(火) 10:00～11:30	第 8 回打合せ	(1)報告書の見直し (2)今後の進め方の確認
平成 27 年 1 月 21 日(水) 10:00～11:30	第 9 回打合せ	(1)報告書の見直し (2)今後の進め方の確認
平成 27 年 1 月 28 日(水) 14:00～16:30	第 6 回策定委員会及び三産地施設整備検討会合同会議	(1)パブコメ等意見 (2)最終報告書の確認
平成 27 年 2 月 20 日(金) 13:00～13:30	越前市へ報告書の提出	工芸の里構想報告書を越前市長へ提出